

を塗擦し、又は昔から亂切刀で淺く皮膚を亂切する法もある。顔面の酒渣は又眼瞼結膜にも同様血管擴張を起し易い。即ち眼の酒渣が起るのである。此方は矢張り「チオノールワゼリン」が有効である。要するに全身的に胃腸及内分泌障礙を除き局所療法を行へばよい。

3 稗粒腫

之は顔面特に眼の周り、頬部等に小さな灰白色の小點が出来る。之は皮膚面には別に隆起はせず、皮膚の内部に存する物である。

数は數箇で時とする周囲に塊つて發生するが、大さは時が経つても粟粒大より大きくはならぬもので、其代り放置しては消失せぬ。之が數多く出来ると目立つて醜くなる。

發生は毛囊の内部の角質が厚くなつて塊つたものであるから、小さな尖つた針で掘

り出すか、或は電氣凝固法で内部を焼けばよい。

4 汗腺腫

是も顔面又は胸部等に發生する、小さな麻の實位の扁平に少し隆起した腫物であつて、疼みや痒みは少しもない。多く婦人の瞼の下方に發生するため下眼瞼の表面が稍不平となる。色は少し褐色で少し離れて観ると、眼瞼が腫つぽく又褐色に汚く見える。歳を老るに従ひ著明となるもので小兒にはない。稀れに顔中一杯に擴ることもあつてこんな人は表面がザラ／＼で色が黒く見える。

此病氣は特種の汗腺が特に其部分で増殖した爲め、其表面の皮膚が隆起したのであつて、原因は一種の良性腫瘍である。

療法としては「ラヂウム」を照射し、又は一つ／＼電氣凝固法で壊して行く。

是によく似たもので「毛囊上皮腫」と言ふものがあるが、之も大體顔面に多發し、

容易に治癒せぬもので、兩者の鑑別は組織検査でないとして下せぬことがある。療法は兩者同じでよし。

5 脂 漏

出産直後の嬰兒は其體の表面が厚い脂肪の層に包まれて居ることは人の知る所であつて、之は母胎内にある間に羊水のため皮膚の膨化を防ぐために役立つて居る。

かく脂肪は外部からの水分其他の浸入を防ぐばかりでなく又内部からの水分の蒸散、温の放熱を防ぐ作用を有し、此事は男子より脂肪層のよく發達した婦人が寒さに對して遙かに抵抗の強いことでも諒解出来る。そこで人體の中で皮下脂肪層が薄いか又は殆どない部分、例へば顔面、頭部、胸、背部の正中線等では之を補ふ爲めに皮膚に脂肪腺が密に分布し、之から脂肪を皮膚の表面に分泌して乾燥又は放熱を調節して居る。顔面では鼻及其周圍が最も皮脂腺の多い所で、此所は外部に曝されるにも不拘

同じ條件の耳殻程凍瘡に罹らぬのは此理由によるのである。

扱て脂肪の分泌にも一定の機構があつて、主として腦の中央部に其中樞があると考へられて居るが、之を刺戟し其分泌を充めたり、皮脂腺の増殖を起させたりするには「ホルモン」の内分作用が大いに關係を有することは前にも述べた通りであつて、年齢と脂肪分泌量とは密接なる相關を示すものである。

今この脂肪が其量及質的に變化を生ずると以下述べる脂漏と言ふ皮膚の變化を起すのであつて、其變化の原因は食餌、運動消化管の吸収、肝臟機能、生殖腺の内分分泌等の複雑なる關係から惹起せられる。一概に脂肪性の食物を採取したから直ぐ之が皮膚から脂肪となつて分泌されると言ふことは人間では證明されては居らぬが、含水炭素性の食物（例へば澱粉質等を多く含むもの）又は肉類は人體脂肪を形成する根原となるものである。

是等脂肪の分泌に病的の變化を生ずることが皮膚脂漏の原因であつて、之を次の二

種に分けて居る。

A 油性脂漏

此病變は乳兒に最も多く、大人にも稀れにある。乳兒でも殆ど常に母乳で育てた子供に出来、人工養の者には發生しない。又一人の子供に之が出ると多く其兄弟にも發生する。恐らく之は母乳の成分異常を原因とするものと考へるのである。發生の部位は頭部で其外眉毛、鼻の周り等にも出る。其部は黄灰色のベタ／＼した丁度鬢付のやうな脂肪が層をなして附着し、固い筈のやうなもので削き取ると下は別に出血もせず、又化膿もして居らぬけれ共、四五日すると又元の通りに分泌物が附着して居る。斯う言ふ子供は濕疹に罹り易く、之が長く附着した儘にして居ると表面が一部分乾燥して固くなり、下面に細菌の感染を起して化膿する。

治療としては軟質のものは「ピンセット」で除き下面の方は「ベンチン」でよく拭き其上から

ピチロール 一〇〇、〇

沈降硫黄又はスカポール 一〇〇、〇

ウイルソン泥膏 一〇〇、〇

を毎日擦込み、時々加里石鹼で洗つて太陽燈を照射して遣る。

若し固く塊つたものでは無理に除ると出血するから是には

スカポール 一〇〇、〇

オリーブ油 一〇〇、〇

で一―二日濕布して軟かにし、其上で之をとり除き、それから前記の療法を繼續するのである。

B 乾性脂漏

之は小兒又は大人に發生し、部位は矢張り顔面、頭部、胸、背部である。

頭部に出来るると糝糠性脱毛の原因となり（後章参照）、顔面に出来るると色々變つた症

状を呈するやうになる。

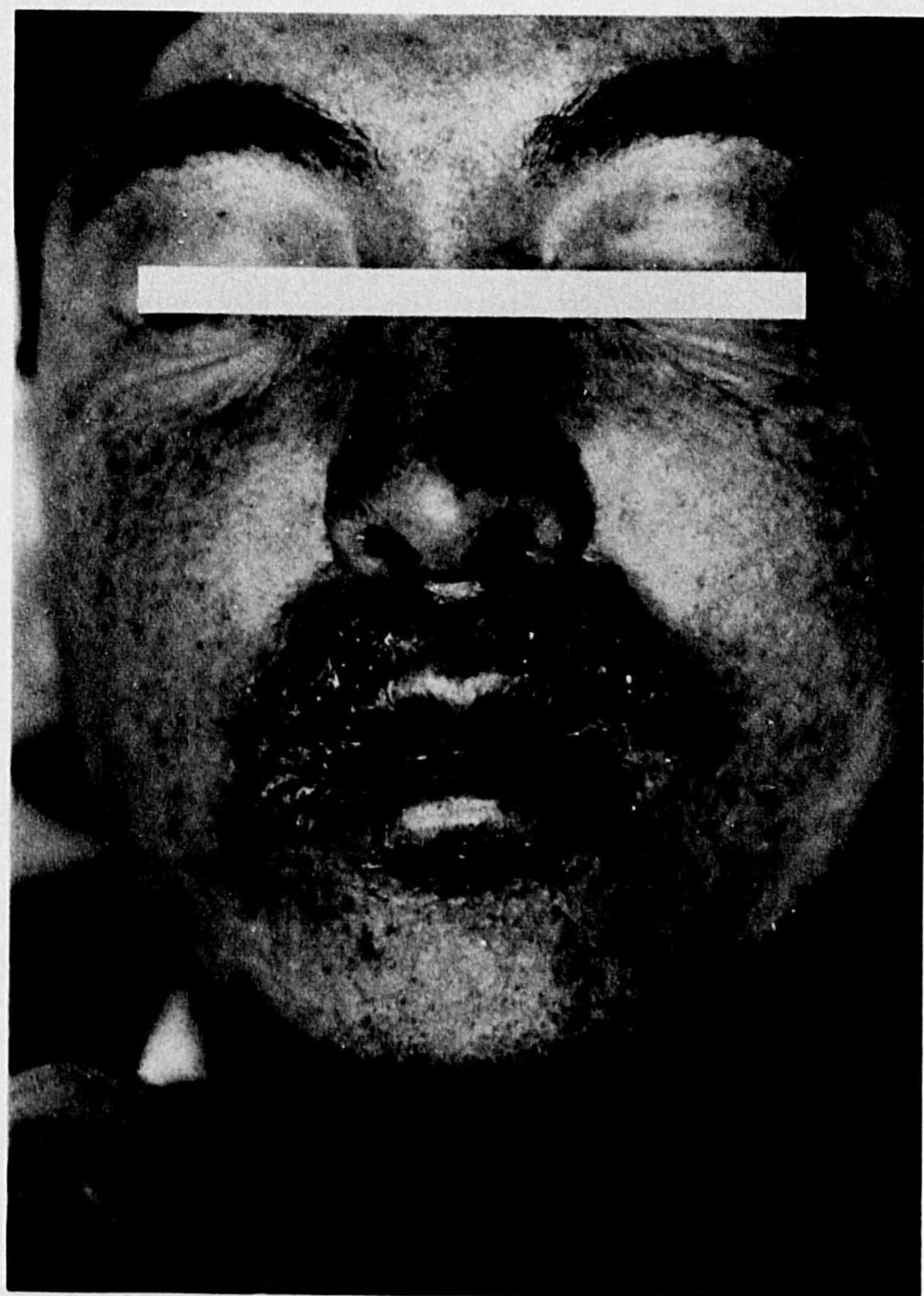
先づ前額部では毛の生え際に灰白色のポロ／＼した米糠状の皮が層をなして発生し、次第に下方に擴ると眉毛の方にも及んで一面に灰白色の粉が除れ、皮膚はカサ／＼となる。

鼻の脇の皺の所では非常に澤山の皮脂腺が開口して居るから此部分には分泌が最も多く、此所にも灰白色又は黄灰色の痂皮様^{カサヅメ}に塊つたもので被はれる。時には薄い皮になつて重積することもあり、其間に小黑點をなした面皰^{ニキビ}が點在して居る。

概して斯う言ふ變化は毛髮の發生して居る部分にも發生するもので、頭髮、眉毛、鬚髯が其ため次第に脱けて薄くなつて行くのである。此療法としては硫黄劑が最も適當して居り、

沈降硫黄又はスカポール 一〇、〇

ウイルソン氏泥膏 一〇〇、〇



尋常性毛瘡
(剃刀負け)

を毎月一回塗擦すれば著効がある。頭部には紫外線を一週一―二回照射するがよい。

6 毛瘡

之は成人男子に發病し、鼻鬚、^{アロピギ}願髻等の部の毛の孔から化膿し、次第に周りの毛孔に感染して強く紅味を帯びて腫れ上る。何年も癒らず烈しくなると眉、睫毛迄も犯される。俗に「剃刀カブレ」と言ふもので、鬚を剃つた毛孔に葡萄狀球菌と言ふ微菌が感染し、その部に化膿を起したものであつて、最初は一―二ヶ所が犯されるが、毛を剃る度に周圍に次々と傳播し、遂には廣い範圍が化膿し、數年間癒らぬと皮膚は赤く腫れて硬くなり、非常に醜くなる。

此病氣の豫防法としては鬚を剃つた後充分に清潔な水又は湯で皮膚を洗ひ、其跡を拭き除つて出來れば消毒した「パウダー」を振りかけておくがよい。若し又一ヶ所の毛孔が化膿したら二三日其周圍に剃刀を當てず、化膿した部の毛を抜き除り、其上に

「チオノール」と言ふ薬をつけておけば一度か二度で癒る。若し廣く犯されたら専門家の治療を受けねばならぬ。此病氣は毛を抜かねば根治しない。即ち抜毛して赤外線照射し、其から「純チオノール」を塗布する。

Ⅵ 皮膚の硬化による變化

皮膚は一定の弾性を有し柔軟なのが正常であつて、之は種々なる病的原因により硬化する、其範圍が廣汎に亙ることと、極めて局限した一局面に限られた場合とある。其性質如何によつては放置しても自然に治癒し得るものと、又治療によつても治癒せず生命の危険を伴ふものもある。

1 表皮の肥厚に因るもの

表皮特に角質層が肥厚すると硬くなり其部分が隆起して表面が不平となり外觀美容

を害するやうになる。

A 青年性扁平疣贅(イボ)

之は多くは十五六歳から二十四五歳の男女に發生し最も顔面、手足背に多發する。大さは麻の實か粟粒位で少し皮膚面から持ち上り、時とすると僅かに表皮が剝離することもあり、又時には平滑のこともある。色は少し黒褐色であるか、又は皮膚と同一色調を示し、散在性に出来る。併し幾ら澤山出来ても別に疼みや痒みはなく、只妙齡の時期に發生するから困るのである。之は治療を加へなくとも何時の間にか自然に癒ることもある。

治療としてはX光線を照射するか又は次の軟膏を塗擦する。

グリテール

一〇・〇

沈降硫黄

一〇・〇

ウイルソン氏泥膏

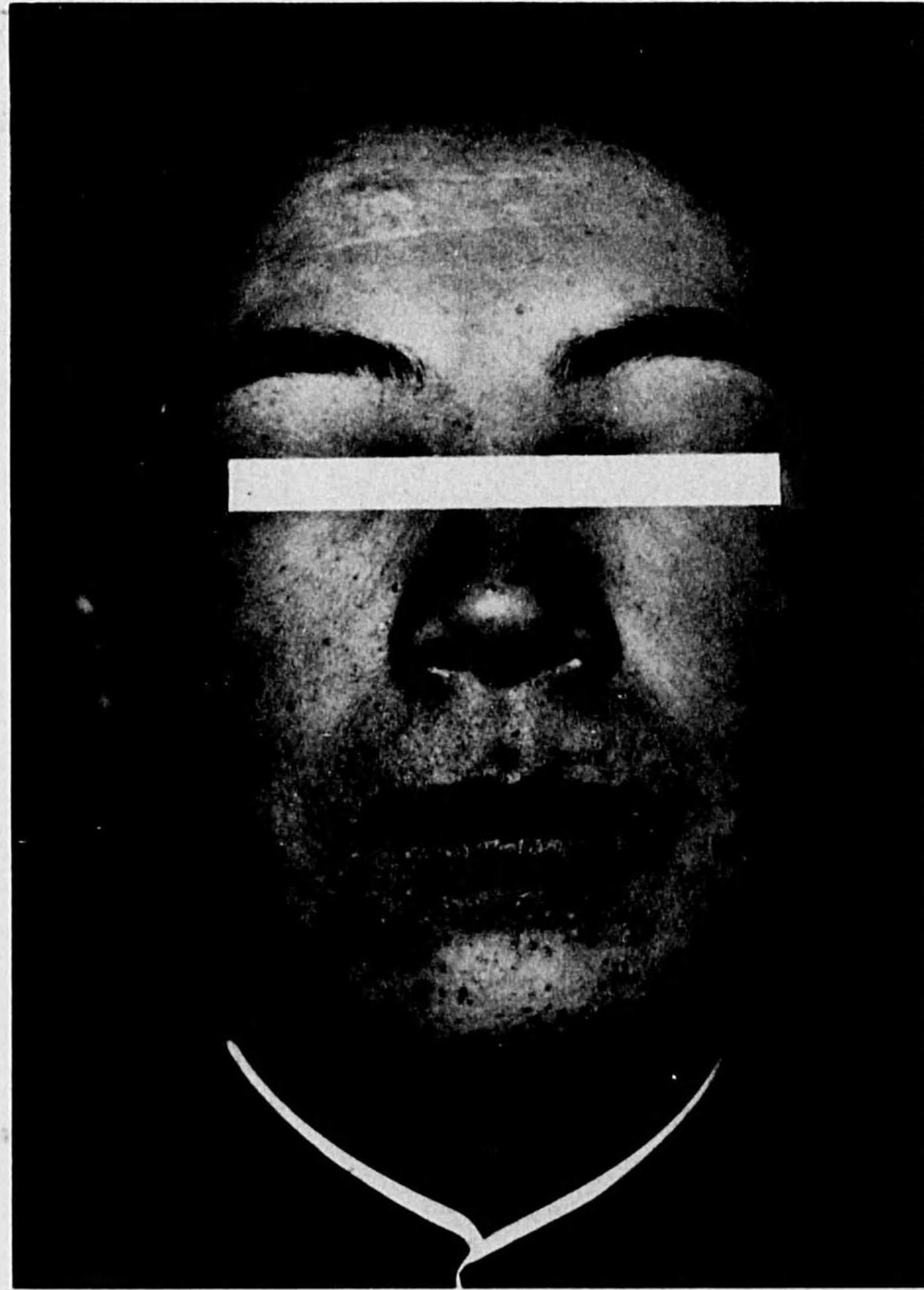
一〇〇・〇

B 尋常性疣贅（イボ）

之は俗に「疣^{イボ}」と言ふ者で主に幼年期に起る。元來は手や足の如き角質層の厚い所に發生するけれ共、顔面に出ることもある。大さは豌豆大で皮膚面から隆起し、多く圓形をなし、表面は粗^{ザラ}糙である。一つ出來ると周圍に跡からくくと幾つも發生し、之が幾つも寄り合つて大きくなることもある。別に疼くも何ともない。昔から「疣取りの呪^{マジナ}ひ」と言つて色々な薬や方法がある。實際之は効果があることもあつて、特に小兒に利^キく。即ちこんなのを「暗示療法」と言つて「癒るぞ」と信じさせると案外それで小さくなるもので、此點「お呪ひ」も馬鹿にはならぬ。併し別に治療もせずとも獨りでに癒ることもあるから、必ずしも「呪ひ」が利いたとばかりも言へない。此病氣の面白いことは接觸により殖えることで、例へば指の横に一つ出來ると、始終之と觸れ合つて居る隣の指の接觸面に何時の間にか又新らしく一個出來て居る。大體此病氣は傳^ツ染るものだと考へられて居る。



尋常性疣贅
(イボ)



青年性扁平疣
(種一の疣)

療治の方法は小児には暗示療法、之は針の尖きか何かで一寸突いてチクリとさせたり、色のつく薬、例ば「マアキユロクローム」の様な薬を塗るとか、音の出る電気療法等をやつて見る。一番決定的な方法は電気凝固法である。自宅でやるには「スビール硬膏」を何度も貼るがよい。之は「サリチル酸」が主剤であるから貼ると白く上方から除れて行く。一度貼つたら四五日その儘にし、又取替へ五六回繰り返す。

此ほか昔から苡薏(ハトムギ)の實を煎じて内服させる方法があつた。此頃之から抽出した「コイコラクラミン」と言ふ薬を内服させた報告がある。

C 老人性疣贅(イボ)

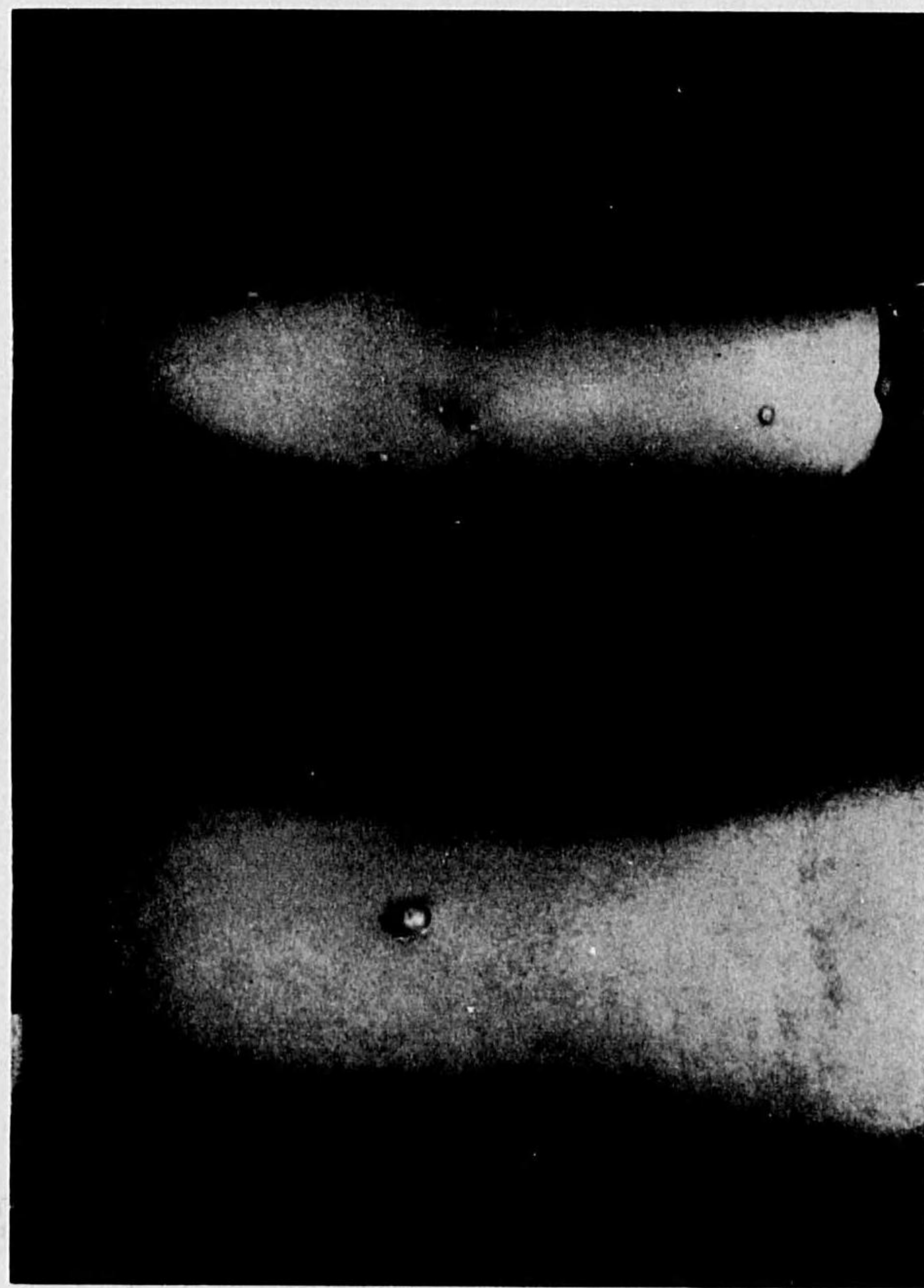
之は五六十歳から先きの老人に出来る一種の「汚點」であつて、顔面、四肢に好發する。極く僅かに隆起した黒褐色の斑狀色素沈着ある發疹で大小種々あり、形は不正である。之が澤山出来ると如何にも老人と言ふ容貌となり汚ならしく観える。又極く稀ではあるが之が次第に肥厚して「皮膚癌」の前驅症をなすこともある。

治療は「甲状腺劑」、「副腎皮質ホルモン」、又は「性ホルモン」等を注射し、一方局所療法として強剝離膏を一週一回位使用する。其ほか腐蝕劑として五〇%三鹽化醋酸を用ひ、電氣凝固法を行ふも亦効果がある。

2 傳染性軟屬腫

此病氣は多く小兒又は乳兒に起る病氣で、顔、胸、腹部に發生する。別に疼みもなく時々少し痒みがあることもある。出來たものは最初は罌粟粒であつて、皮膚と同じ色を持つた、極く僅かに隆起し、圓形をなして居る。併し段々大きくなつて三週間位で小豆粒位から、大豆の半分位迄になると、頂點が僅かに陥凹し、色は少し紅味を帯び、緊張して光澤ある球狀の腫物となる。之をピンセットの様な硬い物で側方から強く壓迫すると其中から灰白色球狀の結節が出て來る、之を「軟屬腫小體」と言ふ。

此病氣は一種の傳染性の腫物であつて、放任すると體の方々に多發し、次々と大き



腫屬軟性染傳
(疣の性染傳)

くなり、其儘にして置くと中心から軟化し、破れて痂皮を作る。小兒同志で接觸して居ると傳染し、よく兄弟間にも發生する。尋常性疣贅と間違へられるが、兩者は全然別物で、俗に言ふ疣より軟かくなり、早く大きく、且つ身體の廣い部分に發生する。治療、此病原は腫瘍の中心にある「小體」に存在するから、出来るだけ早く之を一々丁寧に潰して内容を壓出し、其跡に沃丁又は硼酸亞鉛華軟膏を塗布して置けば自然に癒る。

3 鞏皮症

之は皮膚が硬くなる病氣で全身性に來るものと限局性に來るものとある。

A 全身性鞏皮症

病氣の初めには發熱、全身倦怠、下痢等の症狀があり何時とはなしに皮膚が緊張し、弾力を失ひ、摘み上げても伸びなくなる。病氣は追々進行する一方で其ため顔面皮膚

が突つ張り、笑つたり、泣いたりしても完全に表情が出来なくなり、更に進行すると眼瞼や口の開閉も困難となる。此ほか手や足も同様硬くなり、指は完全に屈伸出来ないから運動も不十分で、結局余病を發し、榮養障碍で死亡する。

原因は今のところ不明であるが恐らく副甲状腺の内分泌障碍ではないかと考へられて居る。治療して完全に奏効する方法はない。

B 限局性鞏皮症

之は顔面又は四肢に發生し細長い帶狀のものと盤狀のものとある。多くは帶狀の細長いものであつて、部位は顔面殊に前額から頭部に一寸位の巾で縦に走つた形をなし、初めは其部分が硬くなり少し表面から陥凹し、色は蒼白で硬くなつた所は稍、感じが鈍く、汗の分泌も減ずる。之は或程度進むとそれで止まり、次第に表面が萎縮して褐色となり、細かな皺が出来、毛髪は脱落して薄くなり後には禿げて來る。

治療は初期には局所に「アセチルヒヨリン」(邦製オピソオート)を皮下注射し、



症 痙 水 性 日 夏
(炎 膚 皮 る よ に け 焦 日)

「ピロカルピン」や「ヒスタミン」の電気泳動法を行ふ外局所の「マッサージ」をやらせる。

Ⅶ 光線性皮膚病

日光々線の中に人體に必要缺くべからざる紫外線と言ふ部分があることは前に述べた通りであるが、人によつては此部分により大なる障礙を惹起する者もある。

此性質は性來の體質に因するもので遺傳によつて子孫に繼承されることもある。

1 夏日性水疱症 (日ヤケの水ブクレ)

小兒の頃より日光々線の直射を受けると皮膚に紅い充血を生じ、やがて小水疱となる。

發病の時期は光線の強い夏季に多く、顔面、手、足等裸出した所に發生し、最も顔



症皮乾性素色

面の頬部に好發する。水疱は薄いからすぐ破れ其部には乾燥すると痂皮が出来る。出來た水疱は大小あるが中央が稍陥凹して居る。毎年何回となく繰返して發生すると皮膚は萎縮して癩痕となり、白斑を生じ治癒しない。強くなると毛髪が脱け、眼瞼や、鼻翼が癩痕のため變形し酷い醜形を呈するやうになる。

此病氣の原因は肝臓に變化があり、又光線に反應し易くなる「ヘマトポルフィリン」と言ふ物質が血中に存するためと言ふ人がある。

治療としては別になく、只日光の直射を避け帽子、日傘等を用ひ、「日焦止め」を用させ發病に對して豫防法を嚴重に守らせる。

2 色素性乾皮症

之も先天性に有する過敏性體質に因る疾患であつて、或る點で前者に似た所がある。即ち産れて間もなく日に當てると皮膚が非常に紅くなり、三四日して舊に復するが、

それが段々成長するに従ひ紅くなるばかりでなく雀卵斑様の色素點が出來、眼瞼結膜にも炎衝を起して眼が赤くなる。此色素斑は數年の間に數を増すと共に皮膚の萎縮が起るから、汗腺、脂腺の分泌が減退し乾燥して來る。斯かる小供は十五六歳の頃には顔その他日光に當る所は黒く色素増殖を起し、小さな腫れ物が出來、之から皮膚の癌に變つて大多數は三十歳前に死亡するやうになる。

本病は血族結婚の夫婦の間に生れた者に多いとも言はれ、是にも矢張り遺傳關係を證明することが出来る。又患者の尿或は血液から「ポルフィリン」を證明し得ることもある。

別に手當の方法とても確實なものはない。矢張り出来るだけ日光又は人工光線を直射しないやうに注意する外ない。

Ⅳ 蕁麻疹及瘙痒性皮膚病

過敏性體質に因るもので俗に言ふ「イラクサ」と言ふ病氣である。

子供も大人も罹るもので、男女の別はない。多くは夜間食後に初まるか又は早朝離床して間もなく起る。色々な種類があるが「食餌性蕁麻疹」と言ふのが一番多い。

1 食餌性蕁麻疹

之は蝦夷、蟹、烏賊、貝類を食すると約半時間か二時間位の後に體の方々が痒くなり、之を搔くと其部分が腫れ、紅くなり、烈しい時には悪寒サムケがあつたり、嘔吐、下痢を起す。之は胃や腸の粘膜に「食餌性蕁麻疹」が出来た爲めであつて、同じく咽喉に發病すると呼吸に困難するやうになり、又鼻腔に發生すると粘膜に刺戟を感じ噴嚏クシヤクや鼻汁が出る。

斯様なものが顔に出ると眼瞼や口唇は腫れ上つて一時全く相恰が變るやうになる。

併し此病氣は出来ることも早いのが又消失することも極めて疾く、二―三時間の後に

は全く跡もなく平常に還る。

2 寒冷性及温熱性蕁麻疹

前と同じことが喰べ物の外に、冷い空氣に當つた時、又は暖つた時に出来ることがある。其ほか藥の中毒や毒虫に刺された時、或は老婦人の更年期にも發生する。

これ等の病氣の原因は一種の過敏性の體質異常によるものであつて、何か喰べた物に對して一度過敏となると、其後は其食物を攝取する度毎に發病するやうになり、之は注意してゐると次第に判る。

療法としては生理的食鹽水（〇、八五％―〇、九％）を一回二〇〇cc位靜脈内に注射したり、カルシウム劑や、ビタミンC、或はヤクリトンのやうな肝臟ホルモン又は老年の婦人には性ホルモンを注射する。

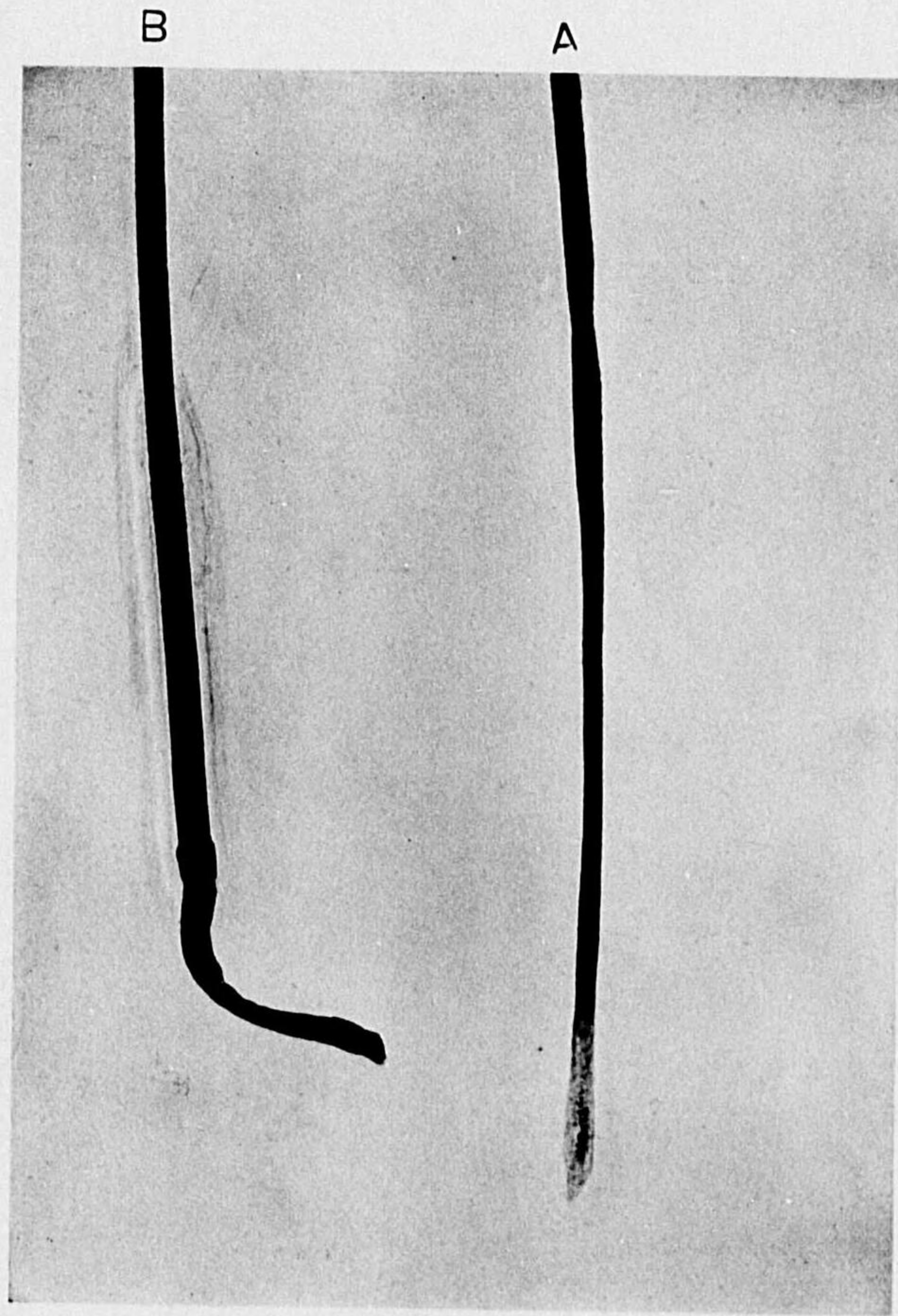
皮膚の局所には石炭酸亞鉛華リニントを塗布すれば一時痒味が止まる。

十五、皮膚に附屬せる器官

皮膚と同じ部分から分化發達し、是に附屬した器官に毛髪と爪とがある。
此兩者共に美容とは直接關係があり、殊に日本では毛髪は婦人美容の主役を占めると言つても宜しい。最近洋裝が普及し帽子を被る人が多くなつてからは頗るゾンザイに取扱はれるやうになつたが、日本固有の習慣からは尙毛髪は婦人美の生命とも言ひ得るのである。

I 毛髪の解剖と生理と

一體人間の毛髪は何本位あるか。一番毛の多い頭部に約八萬本と、其他の部分に二萬本で總計十萬本位あると言はれる。又毛の長さも場所により一定せず、頭髪の如き



(いなが部隆膨に根毛) 毛け拔 A
(るあが鞘根毛) 毛たい抜に意故 B

長さは五尺位に達し、耳の穴の毛の如きは長さ一分に達せぬ位のものもある。元來毛の成長は頭部では一日に約〇、二—〇、三耗、即ち一分内外であり鬚は之より稍速い。我々の毛は不絶生長し又不絶抜け代つて居り、頭の毛の生命は凡そ三年位で、睫毛は百五十日位としてある。従つて或程度の脱け毛は生理的であつて、一日二三十本位の毛が抜けることは必ずしも病的とは言へない。殊に秋季は夏季の酷暑を経て榮養を害されて居るから、最も多く脱けることは人の知る所で、生活力を失つた毛は約二ヶ月半で脱落するとされて居る。

毛髪は其構造上、中心にある髓質と、外表にある皮質とからなり、最外層の部分は硬き角質であるから容易に水分又は藥液に犯されぬが、熱に對しては割合に抵抗が弱く、角質がすぐに變質して了ふ。又此毛髪組織内には多量の「メラニン色素顆粒」があつて、其量多き時は漆黒で、少量なる時は紅毛となるのである。此毛髪内の色素の量は多くは皮膚及眼の紅彩の色素量と比例するから、皮膚の色は飽くまでも白く、髪

は漆黒であることは殆ど望まれない、よく天二物を與へずと言ふは此事であらう。

I 毛髪の手入れ

毛髪も其自然の成長に任せて放置すれば矢張り荒れ易いから、常に健常に保つためには適當の處置を必要とする。特に長髪の男子又は婦人は注意しなければならぬ。

1 洗 髪

處置の第一は洗髪であつて、毛には不絶塵埃が堆積附着し、是等は又空氣中の細菌をも交じへて居るから、適當の間隔を置いて洗髪しなければならぬ。婦人でも尠くとも一ヶ月一―二回は洗ふ必要がある。之は單に毛髪其ものを清潔にするためばかりでなく、同時に頭皮に附着してゐる過剰の脂肪や、「雲脂」を落すためである。併し又餘り頻繁に洗ふことは毛に附着して居る脂肪を過度に除去するから、髪は乾燥し、光澤

を失ひ、毛の尖端が割れ、毛幹から折れ易くなる。

人體に於て頭皮は顔面と共に脂肪腺の分布が多い部分である。よく乳兒の頭部に黄褐色の痂皮がつき頭全體を被覆することがある。之は脂漏と言つて過剰に分泌された脂肪が堆積して生じたものである。男女共に青春期にはよく此脂肪分泌が旺盛の爲に「雲脂」となり、頭部に痒みを覚える。若し長く頭部の洗髪を行はぬと脂肪が分解して生じた有害な脂肪酸の刺戟で皮膚が害せられるのみならず、特有の悪臭を發生する。

そこで洗髪であるが素より單に器械的に洗ふだけでは充分でないから、色々な物が使用せられる。石鹼、澱粉、卵黄、麩海苔等は一歩多く使用せられる。勿論使用する水は冷水より温湯の方が目的に叶つて居るが、餘り高温のものは宜しくない。

石鹼。何んでもよいが只余り「アルカリ度」の強いものは皮膚と同様好しくない。併し病氣や何かで永らく放置してあつたものや、病的に脂肪の過剰なものは薬用カリ石鹼を用ふるが早く奇麗になる。美容院や理髪店で用ふる「シャンプー」にも澤山の

種類があるが、大體軟質の石鹼と思つて居れば間違はない。(後章参照)

澱粉質は水に混じて多少の粘着力ある浮游體となり、器械的に微細な分子を粘着除去する作用があるけれ共、脂肪に對して石鹼程の淨化作用はない。世上使用せられるものは豆の粉、小麥粉、米粉等である。

卵黄、麩海苔は共に一種の蛋白質であつて、相當の粘着力と氣泡形成力があるため器械的に淨化作用がある。

此等の洗髮料を選定するに當り、市販の商品中に往々過量に苛性曹達等を混じたものがあるから、水に溶かして手がヌラ／＼するやうなものは(石鹼以外に)余り使用せぬがよい。又頭皮に皮膚病又は小さな創などがある人は石鹼よりも寧ろ洗粉の類を使用した方が無難である。

洗髮後は大量の温湯を以て使用した洗料を完全に洗ひ落すこと、そうして出来るだけ早く完全に乾燥させること、尙洗髮後は少量の塗油を忘れぬことである。

産れたばかりの嬰ん坊を卵で洗つた爲め、卵白に對して特異な過敏性體質となつた例がある。斯様なことは將來不測の災禍を招く原因となるから氣を付けねばならぬ。

又麩海苔や澱粉質の洗粉にはよく空氣中の微が混じて居るから、洗ひ落し方が不充分であると髪に是等の菌が附着繁殖して害をなす。其中に知られたものは「砂毛」と言つて、毛の中途に罌粟粒ぐらいの塊りが出来、櫛で搔くと引つ懸るやうになる。

洗髮と多少異なるが液體を使用せず、單に澱粉又は滑石を毛髮に振りかけ充分平等に撒布した後、櫛で梳いて粉末を除去し、脂肪又は塵埃等を除去する方法で、之だけで全然液體を使用しないで目的を達する人もあるが、併し此方法は頭皮の清淨法としては不充分である。

2 塗 脂

人體皮膚の脂肪が毛囊に開口して居ることは、皮膚に脂肪を供給するばかりでなく、

同時に毛髪に脂肪を與へ表面に塗脂が行はれる。即ち是によつて毛の表面の乾燥を防ぎ害物の侵襲を妨げる。従つて生理的に適當の脂肪は毛髪にとつても必要である。若し之が不足すると第一に毛髪は光澤を失ひ、表面に多くの微細物が出來て塵埃が溜り、毛は折れ又は裂け易くなる。それで塗油の目的に使用せられるものは油狀（ブリアンチン）、粘稠性（ポマーード）、固形（チツク）等の形として用ひられ、原料の油脂は

動物性 ラノリン 豚脂 鯨油

植物性 オリーブ油 蓖麻子油 椿油 胡麻油 豆油 コ、ア酪 糠油

礦物性 ワゼリン パラフィン油

等であつて、元より動物性の脂肪は人體には最理想的な譯であるが、臭氣、粘稠過度のため其儘使用することは困難である。此點植物性の油は昔から最も多く使用せられるところで、我國では椿油、外國では「オリーブ油」は美髪用として一般的に愛用せられて居る。此頃發賣せられた糠油は粘稠度が弱くサラ／＼して都合がよい。

礦物性に屬する物は毛髪の榮養から言へば一番不適當であるが、化粧品工學の上からは粘稠度の調節に屢々使用されて居る。

總て粘稠度高き物は毛を一束に集着せしめ衛生上余り面白くないが、男子用としては髪を短かく刈込む關係上、調髪に之を使用することは或程度止むを得ないのである。

又油脂とは多少異なるが蠟が非常に使用せられる。之は黄蠟が多く、時には晒木蠟も應用される。

使用上注意すべきことは「ワゼリン」及「パラフィン」であつて、前者が粗悪な原料を使用すると皮膚を刺戟して「皮膚炎」を起し、後者を多量に含有したものを連續使用すると毛嚢口から乳嘴腫と言ふ疣に似た増殖性の腫瘍を起し易い。概して香料以外に刺戟するやうな臭氣ある油は使用しない方が安全である。

3 按 摩

毛髪は皮膚の附屬器官であるから、其榮養は直接皮膚の榮養と密接な關係がある。即ち皮膚の榮養良好ならずして、毛髪のみ獨り佳良なる發育をなすことは不可能である。従つて皮膚の血液循環をよくし、毛根の榮養を増進することは、取りも直さず毛髪の發生々育を佳良ならしめることになるのである。

此目的の爲に常に有毛部皮膚には一定の訓練を行ふ必要がある。

先づ毎日髪を櫛することは一定の緊張を毛根に與へ、其刺戟により循環をよくする。是に用ふる櫛は木製が最適であつて、金屬製は不適當である。之は金屬製では毛髪表面の「クチクラ層」に損傷を與へ易く、「セルロイド製」は摩擦により電氣を生じ易いからである。次に婦人の長髪は乾燥すると互に纏絡し、屈折して折れ易くなるから、絶えず毛束を一定の方向に整束して置かねばならぬ。併し此櫛る運動を餘り目の細かな梳櫛スキグシで強く引つ張ることは、過度の牽引により毛根の剝離を起し、却つて脱毛の原因になるから注意せねばならぬ。又頭部の皮膚を両手の指先きで周圍から揉み上げ又

は下げる。此方法は毎日一回十分間位試みる。其ほか頭が逆上ノボせて痒みのある人は頭部を温湯で蒸し、其後冷水を灌ぐ。之は皮膚血管を擴張及收縮させ其部の血液の鬱滯を去り、其爲め著しく脱毛を阻止する効果がある。外人は櫛で梳く代りに「ブラシ」を使用することが多い、之は多少毛の剛い「ブラシ」を使用して毎日毛根から毛の尖端の方へ向け梳くのであつて、餘り毛が長い場合とか毛が剛い人には適當でないが、歐米人の毛髪は邦人より柔かだ且繊細だから、櫛よりも寧ろ「ブラシ」の方が適當である、之は單に毛並みを揃へる目的以外に塵埃をとり、毛根に軽い刺戟を與へて皮膚の血液循環をよくするから毛髪の榮養を良くする。總じて櫛や「ブラシ」を用ひる場合には、少量の油を塗つてやらぬと毛が斷れる惧れがある。

4 壓迫と牽引

毛髪の榮養に皮膚の血液循環が關係あることは既述の通りであるが、日常生活で知

らず知らずの間に此大切な點を害になるやうな方に持つて行く人が可なりある。

第一に注意すべきことは枕である。昔はよく船底枕と言ふものが用ひられた。之は一つは髪が純日本式に結び上げた、め絡り枕では睡眠中に形が壊れる惧れがあるからであつた。現代の若い婦人は大部分束髪であるから最早其必要はない。第一木枕や船底枕の如きは頭皮又は頸部の皮膚の極く狭い部分を硬い所で壓迫するから、其末梢の方では血液循環が非常に阻害せられ、枕の當る部分では毛根が過度の壓により榮養障礙を起し其部の脱毛を起すのである。現今屢々新聞などで宣傳せられて居る或種の枕の如きも此意味から充分考慮に値すると思ふ。矢張り一番好いのは出来るだけ廣範圍を接觸し、余り固くない材料を内容としたものである。

又過度の牽引が害あることは、婦人で日本髪に結ふ人の中央髓頂部が、例外なしに禿げてゐることからでも了解出来るであらう。殊に少女でも耳の上方の生え際に沿ふて禿げることが、矢張り強く髪を束ねて緊縛したことに原因して起ることがある。

5 毛焼き(シンジング)

床屋で散髪した後よく蠟燭で刈つた毛の尖端を焼く人がある。之は毛の斷端を燒潰し、毛幹から養分の漏出するのを防ぐから、脱毛や白髪になるのを防ぐと言はれるが、之は大した根據のあることではない。それどころか此方面の研究を行つた人の精細な検査によると、鋏刀で刈つた切口は三週間位で圓くなるが、焼いた方はそれ位で恢復しないのみか却つて中心の隨質に空氣が侵入して行くことのあるのが知られた。して見ると焼いた爲めに毛の尖端は却つて強く損傷し、且つ間隙を生じて空氣の侵入を來たすため外觀も白く反射し易くなつて、結局焼かない方が毛の爲めに良いと言へる。

6 精神障碍と毛髪の榮養

以上は直接毛髪の處置であつたが、之以外に全身の榮養特に精神障碍が及す毛髪の

榮養障礙を觀過してはならない。

第一に大きな影響があるのは不眠である。

「睡眠障礙」が續くと著しい脱毛が起る。

次には「精神過勞」であつて之は俗に「心配するな頭が禿げる」と言はれて居る位である。昔から一時性でも激しい精神上の衝撃を受けて毛髪が白くなつたと言ふことが記載され、歐洲戦争の當時も第一線の塹壕中に勤務したものは短時日の間に著しく白髪が殖えたことが知られ、今次の日支事變でも同様のことが新聞などに報ぜられた。恐らく之は毛根の榮養神經に異常を來したため榮養障礙が繼發して以上の如き變化を生じたものと考へられる。

此ほか尙注意すべきは慢性の便秘で、婦人に殊に多く、是に次いで齲齒、慢性蓄膿も脱毛の原因となるから全身の榮養は特に注意しなければならぬ。

Ⅱ 毛髪 の 疾患

1 脱 毛

凡そ毛が抜けるためには先づ毛根の毛球部が毛囊内の組織から離脱し、次第に上方に脱出し遂に毛囊外に脱落するのである。此間に約二ヶ月半位の時日を必要とするのであるが、此途中に於ても故意に之を引張るか、引つ搔いたりすればそれより早く抜け落ちるものである。

斯く生活力を失つた毛は正常の毛髪に比して光澤が乏しく、根部末端が細くなつて居り、少しの疼みもなく抜けるものである。

又抜ける毛の量も季節によつて多少異り初夏及秋季は生理的にも其量が増すものであるから、多少抜けかたが多いと言つて必ずしも心配する要はない。

髪は抜けかたにも種々あつて

イ 一ヶ所が塊つて抜ける場合

ロ 全體が抜けて薄くなるもの

ハ 集團的に方々に抜ける場所が出来るもの

等である。

毛が抜けたため人の目に付き易いのは何と言つても頭髪と眉毛である。其中でも眉毛は割合に犯され難いものであつて、人の忌む癩病では頭髪と共に眉毛も抜け落ちることは一般に知られて居るから、偶々他の病氣で眉毛が抜けた、め之と誤まられることが可なりある。普通人にあつては頭部では髪毛の根が透けて見えることはないもので、若し表面から地肌が見えるやうであれば、それは病的脱毛のためであると思つて差支へない。

又毛髪が薄くなると言ふことにも二た色ある。即ち毛が抜けて数が少くなるためと、

もう一つは数は普通にちかくあるが一本々々の毛が短かく、且つ細かくなつた爲め薄くなつて見えることとある。

そこで毎日々々抜け毛が長く太い毛であれば別に氣にすることはないが、假令数は少くても短かく細い毛が澤山混るやうであれば注意して、早く手當を行はねばならないのである。

2 脱毛と内分泌

毛髪が脱けると言ふことは、其脱毛した部分に打撲や外傷等を受けた所謂局所的原因によるものと、別に全身的に何か障礙があつて其影響として現れる二次性のものとあり、前者は概して小部局に發生し、後者は屢々廣範圍に互つて現れる。全身性の影響によるものでは「チブス」、猖紅熱、流行性感冒、肺炎等の後に起り、婦人に於ては出産後脱毛が續發することは世人の宜く知る所である。斯く熱性病等の全身病に脱毛

が起るのは、病原菌の毒素により全身が犯される際毛根も亦榮養を害されるから、其結果抜けるのであるが、出産の後起るものは之と稍異り、卵巢の内分泌が變る爲と考へられて居る。即ち男女共に生殖腺の機能が旺盛になり、思春期に達すれば毛髪は其艶を増し同時に成育が旺んとなる。之は一種の「性ホルモン」分泌と密接なる關係があり、他の甲状腺、腦下垂體などの機能と相俟つて毛生作用が亢進するのであつて、是等の器官が漸次其機能に衰耗を來せば毛髪亦自然と發育が不良となり、所謂「老人性禿髮」となるのである。尙又假令自然現象たる器官の老人性萎縮を來さなくても、何か夫等の部分に病的變化が起きても同様の結果となる。以上の種々なる内分泌臓器の中で最も關係深しと考へられて居るものは、腦下垂體前葉の部分であつて、皮膚に何の變化もなく、月經にも異常がない人で全般的に毛が抜ける人は一應其病變を考へなければならぬ。今日では原因不明の脱毛によく其製剤が應用せられて居る。



髮禿形円
(主坊灣台)

3 脱毛の種類

A 圓形禿髮（臺灣坊主）

俗に言ふ「臺灣坊主」である。圓く大小の禿が出来て疼みも痒みもなく、禿げた所は光つて居る。數は一つのことと澤山出来ることとがあり、時によると全頭髮は愚か全身の毛が悉く抜け落ちることがある。此病氣は時が経てば大體復た元の如く毛が生えるが、時によると何回も再發することがあり、初老の人では此部分だけ白髮となることもある。昔は傳染すると考へられたが現在では此考は信じられず、寧ろ局所皮膚の榮養神經障礙が主なる原因とする人が多い。従つて手當の方法も主として此部分の營養を恢復させるやうにする。即ち紫外線を照射したり、〇・五%昇汞酒精を塗布したり、又は其部分に「ピロカルピン」や「ヒスタミン」の電氣泳動法を試み、時には「アセチールヒヨリン」（邦製オピソト）を注射する。是等の方法は總て該部の皮膚

血管を擴張させ、其循環を良くする目的であつて、是等の方法で大體毛髪を再生することに成功するが、禿げた部分が他の周囲の皮膚面より陥没せるものや、又は皮膚が小皺を生じツルツル光つて居るやうなものは、其部分の皮膚組織に萎縮が存在する證據で恢復が稍、困難である。

よく世間には手療治で刺戟の強い藥品の塗布に依り皮膚炎を起し、榮養障得を一層強くして其爲め却つて治癒を困難ならしめて居る者を見受ける。概して禿げた部分に毛穴が表面から觀られるものは治癒が早い。治療には局所療法の外に「腦下垂前葉ホルモン」を注射するがよい。又引つ張つて毛が抜ける間は再生は困難である。

B 脂肪性禿髮（逆上禿げ）

男女に不拘廿歳前後になつて頭部に痒みを覚え、逆上せ「雲脂」が強く、搔けばバラ／＼と雪のやうに落ち、所々に厚く痂皮カサブタのやうに重つて居る。斯様の人々は次第に脱毛し毛が薄くなり、卅歳前後で早くも鬚頂部か前額部から禿げ上つて来る。初めの

間は脱毛した後細い毛が再生するが次第に萎縮してに遂には再生しなくなる。之は先天性の體質によるもので、家族的に親子又は兄弟に同様の人が觀られる。之を俗に「若禿げ」とも言ひ、特に頭部から汗の分泌が多い。「頭から湯氣を立てる」と言ふのはかう言ふ人である。

此手當としては出来るだけ早く脂漏を止め、皮膚の鬱血を防ぐやうにする。即ち

レゾルチン 五、〇

石炭酸 一、〇

七〇%酒精 一〇〇、〇

を毎日一回塗布し

スカポール 五、〇

オレーフ油 九五、〇

を混じて一週一―二回皮膚に塗布して置く。

又一週一回紫外線照射を行ふがよい。

C 結髪性脱毛

日本髪に結び上げるために芯を強く縛るから、中心に當る髄頂部の髪は強い牽引を受け、榮養を害せられて其部が禿げる。脱ける前に其部分は皮膚が紅くなり、腫れて浮腫ウレムが来る。此程度の時期によく局所を按摩し、且つ適當の治療を加へると共に牽引を止めれば、脱毛を軽度で喰ひ止めることが出来る。

D 症候性脱毛

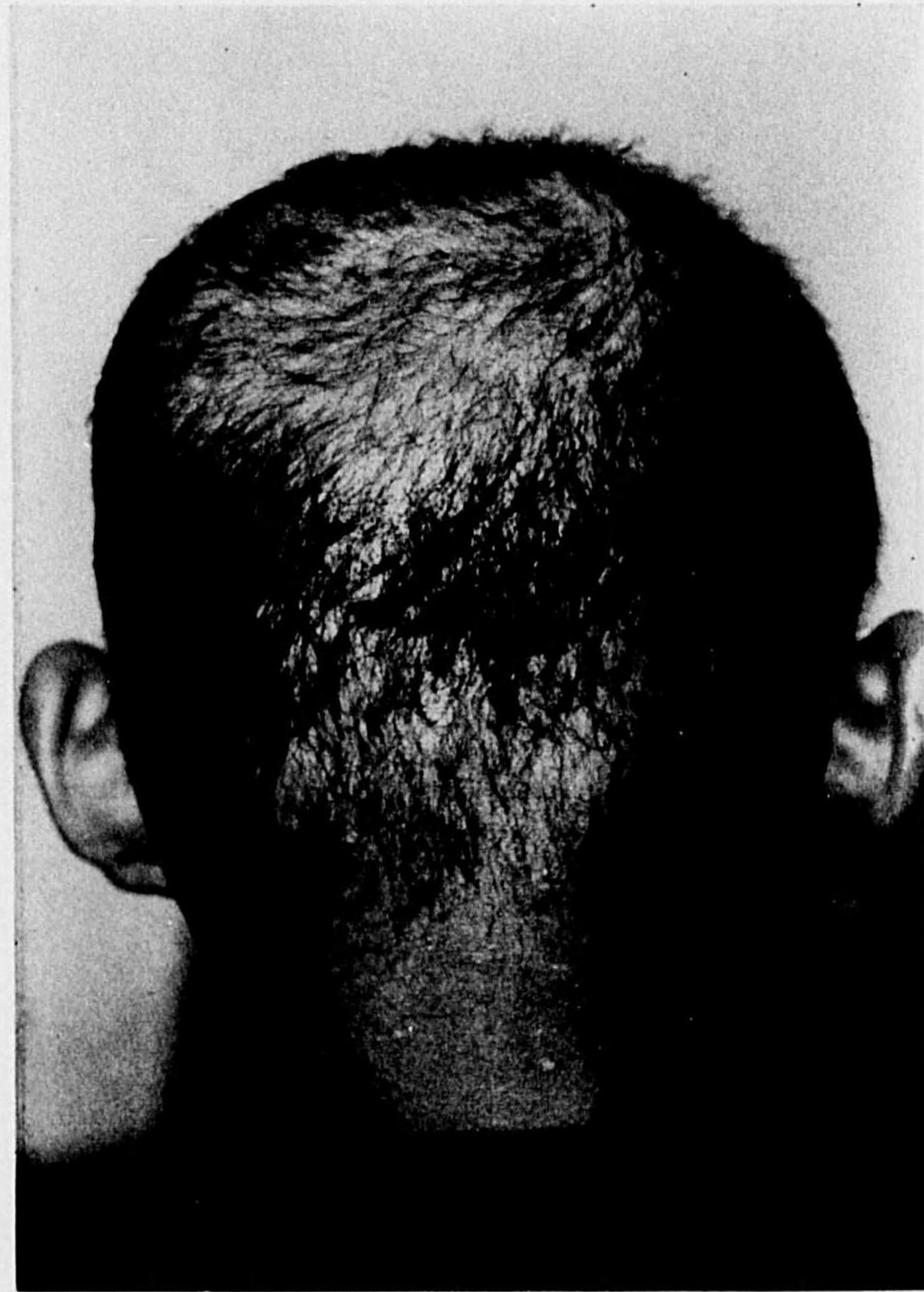
之は産後又は熱性病の恢復期に起る脱毛で、放任しても又自然に再生する。脱毛の次に美容的に患者の訴へる毛髮病は次の如きものである。

4 縮毛チンレゲ又は聯珠毛

之は兩者とも大體同じ性質で前者より後者の方が程度が強い。共に生來存在する一



毛 縮



毛 珠 聯
(毛縮の度高)

種の毛髪發育異常であるが、之は遺傳的に家族性に發生するものである。黑人種には先天性に縮毛を有する種族が多く、白人種も黄色人種より毛が縮れたものが多い。餘り高度でない縮毛は毛髪の一部が縮れるだけであつて、之は前頭部に多く存する、併し高度の縮毛となると第一に毛髪が健全なるものに比して短く、毛幹が正圓でなく、断面は所によつて不同であり、皮膚は毛孔に於て角質が肥厚し持ち上つて居る。聯珠毛は毛髪の数も少く卷縮の度も強い。

毛が縮れるのは毛髪發育が不平等であるため、其大きさが大小の部分を生じ、細く^{ネチ}緘れた部分から屈曲して縮れるのである。此發育不平等の原因は、毛囊上皮の角質肥厚に基因すると考へられて居る。

治療法としては有効確實なるものは無い。只幼時であれば腦下垂體の「中葉ホルモン」(ゴナドトロピン)を使用し、一方「ビタミンA」を與へ、局所皮膚の「マツサージ」を勵行して見る位である。

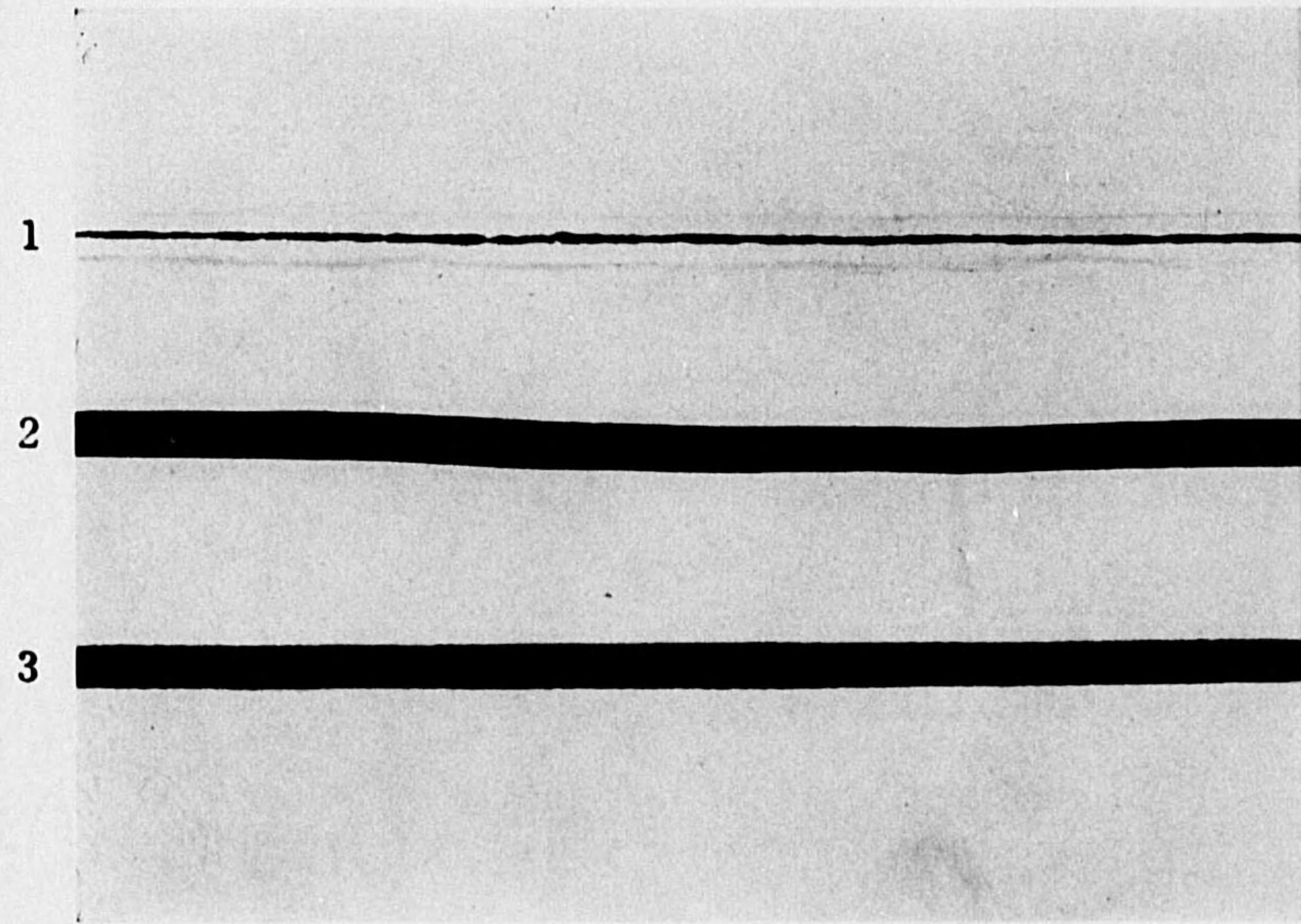
5 白毛又は赫色

毛が脱けて無くなるのも困るが毛があつても其色が變つては美容を損することが甚しい。我々有色人種の毛髪は大體漆黒で、之は其毛質中にある色素顆粒カリクに由るものであることは既述の通りである。

元來表面から觀て黒く見える毛も之を日光の直射する所で觀察すると稍々赫褐色を呈し、之に油をつけると再び黒色となるのであつて、之は主に光線反射の加減で斯様に色調の差が生ずるのである。

所で生來色素顆粒の量が少い人は色が赫く、更に一層少量であれば灰色となり、全然消失すれば白毛に變るのであつて、黒毛の人が白髪に變る時も大體右の過程を経て變化するのである。

生來毛髪に色素が少い人は皮膚の色素も少く、家族的に遺傳關係を證明出来る場合



1 白毛 2 染毛 3 正常毛

が多い。私は之まで數例純粹の日本人で、恰も白人と同様に全身の色素過少の人を診察したことがある。

年齢によつて生ずる白髪は四十歳位から初まることが多く、之より早く二十一―三十代に起るものを「若年性白髪」俗に「若白髪」と言ふ。又白髪の初まる部位は大體耳の上方即ち顛顛部キリジユか、額の生え際であつて、次で頭の頂上に及び後頭部は最後に白くなる。之は大體禿げる部位と一致して居つて、つまり刺戟を最も多く受けて、榮養が悪くなり易い部位から初まると解すべきであらう。

又毛が白くなることは個々の毛髪に就いて言へば毛の尖端から白くなる場合が多く、根の方から先に白くなること、ダンダラに白くなることは少い。

個人に就いて観ると以前に外傷又は手術を受けた部分や、不絶刺戟をうける所から先づ白くなり、「ラヂウム」やX光線療法を受けると其部は他に先んじて變化する。

白髪は又他の皮膚病の結果發生する。例へば頑固で癒り悪い圓形禿髪の後とか、尋

常性白斑シロナツの部とかは多く白髪になるもので、殊に後者の場合女子などで、部分的に塊つて白い毛が生えて居る人では、其毛の根を調べると大抵白髪に一致した部分の皮膚も共に白くなつて居る。

之は毛髪の色素が其毛囊上皮の色素から由來して居るためであつて、白斑でも時が經つと單に皮膚表面のみでなく毛囊内の色素も消失するために、毛に色素を供給することが出来なくなるから白毛となるのである。

毛髪が白くなると毛質にも何か特別の變化が起るかと言ふと、顯微鏡的には色素がないと言ふ以外、時に最外層「クチクラ層」の下層細胞内に空氣を含有する事が證明せられて居る、是に就いては假令色素があつても毛幹内に空氣の氣泡が存在するだけで白髪と言ふ人もあるけれ共、併し此説は多くの人から承認せられておらぬ。

又白毛は質が硬くなると言ふ人があるが之も確證がなく、白毛が抜け易く、抜いても疼いたみがないと言ふけれ共之も誤りであつて、却つて場合によつては抜け憎いと言ふ

實驗的證明もある。

白髪の原因は一種の老人性營養障礙であつて、自然現象と認むべきものであるが、是に色々他の原因が加つて其發生に迅速が起る。

其原因の一つとして矢張り内分泌障礙を擧げることが出来る。即ち甲状腺、腦下垂體の内分泌に異常が起ること、就中、甲状腺機能が亢進してバセドオ氏病になつたり、或は逆に低下すると白髪が起り易くなる。「老人性白髪」は機能低下によることが多く、甲状腺製劑を内服させて白髪が黒毛と化した報告がある。

一方腦下垂體では主として其「前葉ホルモン」が關係し、若年性の白髪に對し之を注射して奏効したと言ふ人があつた。

赫毛は毛髪色素の一部分減量した爲め後天的にも起る現象であつて、之は手入れの不足や、使用香油又は「雲脂除り香水」等の不良のため或は「パーマネントウェーブ」を數回繰り返すことのために毛髪の表層に剝脱を生じ、色素が減ずるために起る

のである。

白髪の手當としては要するに全身の榮養を充めることが必要であつて、其目的には甲状腺又は「腦下垂體前葉ホルモン」の注射を行ひ、局所的には「マツサージ」、紫外線照射等を試みるが、効果は余り確實ではない。

後天性の赫毛には塗油、「ビタミンA又はD」の内服、「腦下垂體前葉ホルモン」注射等が有効であつて、不良化粧品の使用を中止し、適當なる洗髮料を選定し、手當に注意すればよい。

6 裂毛

之は毛の榮養障礙が原で起る變化であつて、主として髮毛の尖端から「サ、クレ」、割れて來る。毛全體は乾燥し、光澤が無い。治療は全身の榮養をよくし、毛には油を塗布して乾燥を防ぐ。

「結節性裂毛」と言ふのは髮又は鬚の途中が膨れ其部分から毛が割れて斷れる。直接の原因は毛の乾燥及外力であるが、其根本には「ビタミン不足」があるから是等の人々は「ビタミンA」及Dを服用するがよい。食物にも脂肪に富んだもの就中動物の肝臓を食することは効果的である。

7 白癬 (シラクモ)

小兒特に男子に多く、毛が斷れて皮膚より一分位の所から折れて居る。皮膚にも白い鱗屑が附着して居る。外の子供に傳染し易いから速かに隔離して治療せねばならぬ。

8 黄癬

頭髮に灰黄色の結痂が付き一種の臭がある。患部の皮膚は癬痕になり、頭髮は脱毛する。本病も一種の黴の寄生で發病するもので、他に傳染するから發見次第手當しな

いと永久の禿げとなる。

總て頭の微で起る毛髮病は接觸で傳染する、特に學童に多く、帽子、櫛等から容易に傳染し仲々癒らぬ。

一番簡単な療法は沃度丁幾を塗布することであるが、之も毛を抜いてから塗布しないと効果が薄いから速かに専門家の治療を受けるがよい。又毛髮に本病ある人は顔面に「ハタケ」が出来、之も矢張り同一の微によることが多い。紫外線照射も極めて有効である。其他は皮膚の白癬と同一の方法でよい。

9 多毛症

體表にある毛髮の数は人によつて多少があるから、どの程度から多毛と言ふかは一概に決められない、併し茲に言ふ多毛症といふのは既に病的に其數が多いもの、特に正常の皮膚には毛が著明でない部分に剛毛が生えたり、又は一箇所密集して長毛を

生じたやうな者が治療の對照になるのである。多毛の人では男子の場合は比較的問題にならないが、美容上に治療を要するのは婦人で特に顔面にあるものである。其外では手足の露出部に於ける多毛、又は多毛と言へないが眉毛の矯正或は生え際の毛並みをよくする事などで、整形的治療を求められることが多い。

歐米人は概して多毛性な人が多く、婦人の中年以上の者で立派な鼻下の鬚を持つた女を見掛けることは少くない。又顔も鬍毛(ウブ毛)が一杯生えて居る。之は本邦婦人の如く剃刀を當てることのないためで使用する白粉の如きも邦人とは毛のため多少其性状が違つて居る。

多毛を治療するのは皮膚を害せず毛髮のみを除去するを理想とするのであるが、是には色々の方法が講ぜられる。

藥物拔毛法

之には「バリウム劑」が最も多く用ひられる。其外には「ストロンチウム」、「カル

シウム」等で之等は皆硫化物として水に溶解する性質を持つて居り、角質を溶解する力が強い。是等は粉末又は「ペースタ」の形にして用ひるのであつて、其作用した所は毛幹が膨化溶解し、断裂するやうになる。従つて此作用は皮膚から出て居る部分のみ作用して居るのであるから、眞に毛根から脱毛したのではなく、時が経てば再び生長して舊に復する故、其作用は一時的に過ぎない。同時に之は皮膚の養育層をも溶解するから、繰り返して使用する中には皮膚は粗糙となり荒れて皮膚炎を起し易い。一回五分位で止める。「醋酸タリウム」は内服により毛根の神経に作用し、榮養を害するため遂に脱落する。之は併し屢々中毒症状を起す危険があつて、大體體重一盃に對し〇・〇〇八瓦を使用するのであるが主に小兒の頭部白癬に用ひられる。此方法は單に必要な部分の脱毛に止まらず、全身性の脱毛を起すから、美容の目的には用ひられぬ。そこで之を一%の割に「クリーム」に混じて局所に使用し目的を達したと言ふ人があるけれども効果に就いては疑しいと思ふ。

硫化バリウム 八〇・〇
 粉末脱毛劑
 沈降チヨウク 一〇〇・〇

水酸化カルシウム 四・〇
 カオリン 三三・〇
 液狀
 グリセリン 一・〇

硫化カルシウム 三三・〇
 硼砂 一〇・〇
 パスタ狀
 ラノリン 一〇〇・〇

10 砂 毛

婦人の毛髪中途に小さな玉が附着して櫛で梳くと齒に引つ懸る。色は灰白色のこと又は紅褐色のことがある。澤山出来ると汚くなる。之は砂毛菌と言ふ黴の一種が寄生したものであつて、小麥粉又は麩海苔で髪を洗ふ人に出來易い。治療は5%の「ゾルチンアルコール」でよく浸し數回塗布し後加里石鹼で洗ふがよい。又洗髮料を充分洗ひ流せば感染を豫防出来る。

11 頭 蝨 (アタマシラミ)

之は毛髪疾患ではないが毛髪のある皮膚に寄生するのであつて、頭部以外には擴がらぬもので、衣服に繁殖するものとは全然別種である。主に小學生の女子に多く、毛を長くすれば男兒にも寄生する。不絶皮膚を咬刺するから疼みが強く、之を搔く爲めに頭皮に傷創キズを生じ、之から細菌が感染して化膿し痂皮カビが一杯つく、特に後頭部に斯様な痂皮や膿疱を觀たら頭蝨と斷定して間違ひない位である。化膿するやうになれ

ば淋巴腺が腫れるから發熱することがある。

蝨は接觸して傳染するのであるからよく女中から子供に傳播することがある。怪しいと思つたら毛髪を調べると卵が毛の根の方に附着してゐるし、梳かけばすぐ虫が出るから解る。

治療としては水銀石鹼を買つて温湯で濡らし髪につけて揉むと泡が立つから、其儘頭に手拭を被せ二―三時間の後充分洗ひ流す、卵は櫛に酢をつけて梳けば除れる。此方法の外には

石 油 五〇、〇

オレーフ油 五〇、〇

を混じ之で頭髪を濡し矢張り手拭で包み一晚おいて翌日洗ひ落す。此方法は油だから火を呼び易い爲め治療中は火の近くに寄らねやうせぬと燃へ付く危険がある。

總て蝨のやうな寄生虫は母虫だけ殺しても卵が孵化すると又再發するから、一度施

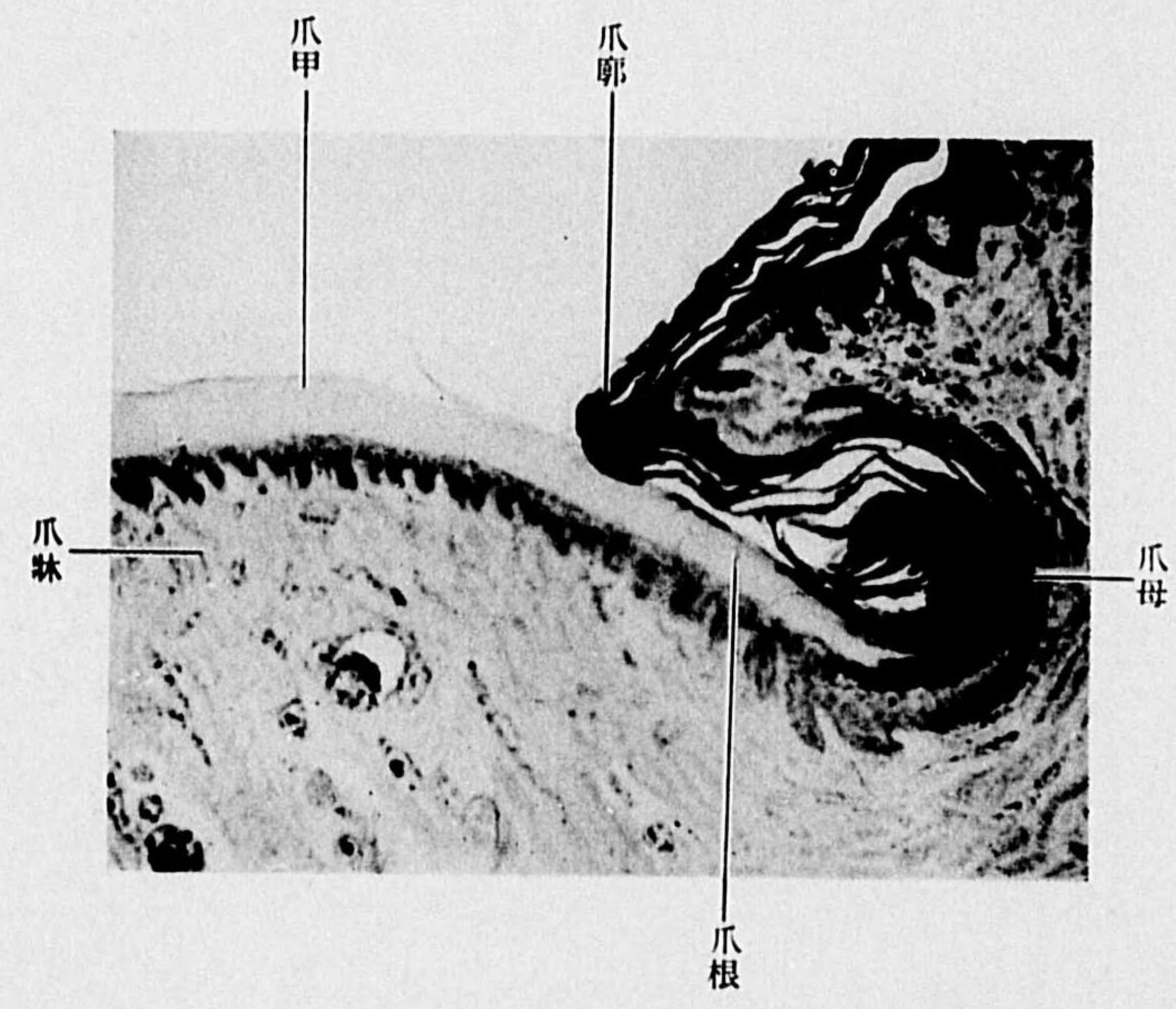
術したら一週間位経つて、もう一度念のため繰り返す方が安全である。此外獨逸製に「ラルソフアン」と言ふのがよく利く。

III 爪の美容

爪は毛髪と共に美容上観過すべからざる重要役割を務めるもので、手の美観は指、殊に爪によつて代表されて居ると言つても宜い。

V 爪の生理及解剖

爪は指端の^{ユビサキ}手背面に附屬した厚い角板から出来、根部の^{カシラ}嵌入した皮膚の部分即ち「^{ソオボ}爪母」から發育成長して行くもので、一日約〇・一耗位の割に成長する。若し爪母部の皮膚に榮養障礙が起れば爪甲にも亦榮養障礙が現れる。夫れ故、爪は一面又個體の榮養を表徴して居るとも言へるのである。



爪の解剖

爪甲の角質は健常なるものは平滑で下方の血管を徹して奇麗な紅味を帯び、其根部には「爪半月」と言つて白色で三日月形の部分がある。此爪甲は皮革で磨けば光つた光澤を生じ美しい。痒みの強い皮膚病患者は不堪之を搔くから其爪は磨かれたと同様に美しく光つて居る。

Ⅶ 爪の手入れ

爪甲を余り長く伸して置くことが不衛生なるばかりでなく、垢が溜つて汚く感ずる。併し又世間には出来るだけ短く剪り詰める人があるが、之も爪牀皮膚に器械的刺戟を與へるばかりで、次第に皮膚と爪甲とが剝離ハガれて行く惧れがある。大體の見當は爪の游离縁から約一耗位の所で切つておけばよい。此切り方は西洋人は中央を長く丁度半月形に剪つて居る。

爪の表面は若し凹凸が出来たら軽く小刀又は鋸ヤスリで削り其上を細かな木賊トクサの様なもの

で擦り、更らに革で今一度磨いて平坦にして置かないと、削つたばかりでは粗雑な面に汚物が附着して却つて汚くなる。又色々な操作は硬いまゝ行ふより温湯に浸けて軟かくした上で行つた方が容易である。又爪の根部の皮膚は出来るだけ基部へ押上げ、餘つた硬い角質部は切り取つて置く、之は指端の「サ、クレ」を防ぐためである。

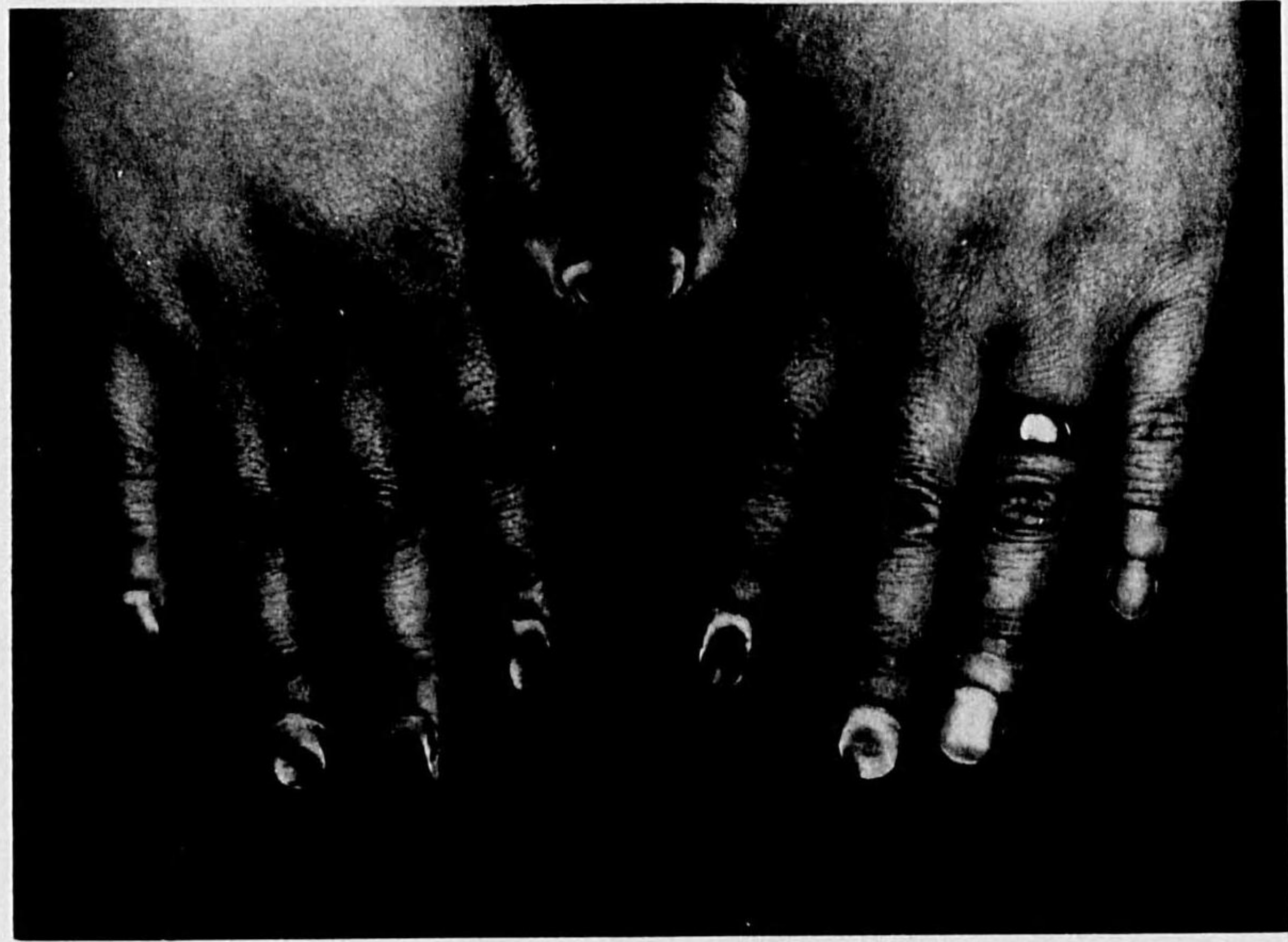
Ⅶ 爪 病

1 白 癬

爪が厚く、併し質が脆く、灰白質で角質に穴が空いて空隙が出来る。此空隙に塵埃や垢が溜つて黒く色がつく。之は多く爪の尖端から初まるから、出来るだけ變化した部分を削り且つ剪り除いた上薬を塗布する。仲々頑固で癒り悪いのみならず長く放任して置くと爪全體が、灰白色となり分厚い光澤のない汚ない色に變ずる。一本の爪が



爪母炎に因る爪の變化
(皮膚病に因る爪の變形)



爪形匙
(爪形變)

犯されると次々と外の爪に傳染し、爪の根の方へ擴ると皮膚と爪との間が紅く腫れて其間に膿を持つやうになり、疼みが出て全體の爪を除去せねばならなくなる。

此病氣は白癬菌と言ふ「白くも」の黴菌が寄生したもので、之を殺さねば治癒せぬ。それにはX光線、ラヂウム等を照射する外、5%の「沃度コロヂウム」を一週一―二回塗布し、軟かくなつた部分は徹底的に削り除るがよい。

2 爪甲白斑 (爪のホシ)

爪の面に白色の點狀斑が発生する。之は打撲又は其他の原因で營養障礙を起し、角質の間に空氣が入つたため反射して白く見えるのである。

3 匙形爪

爪が厚くなり兩側縁が上方へ捲くれ上るから、爪甲の中央が陷凹し、恰も匙のやう

になる。之は多く全身の營養障礙に原因して起つた變化で、殊に「胃酸缺乏性萎黃貧血」患者に合併するから、速かに内科的治療を要すること勿論である。

4 爪甲縦裂症（爪の裂ける病氣）

爪甲に先づ縦に筋が出来、其線に沿ふて爪の尖端が割れる。之は必ず何時でも同じ所から裂けるので衣服などに引つ懸り非常に不便である。

5 爪牀周圍炎（爪の周りの化膿）

水仕事や汚物を取扱ふ人に多く發生する。爪の周り殊に尖端と兩側に多く、初めは熱を持つてツキ／＼疼みやがて化膿して紅く腫れる。併し瘰癧ヒョウワウのやうに深部迄犯すことは少く、皮下に止り大抵表皮内に白く化膿する。只兩側方から起つたものは爪の下迄擴り易く、そうなつたものは早く爪甲を剝離して切開し、薬がよく廻るやうにしな

いと深部に進行する危険がある。治療は切開して「リバーノール」で濕布し、赤外線を照射するがよい。

Ⅵ 爪病の一般的手當

爪の疾患で細菌性のもの以外では變形、剝離、變色等色々あるけれ共、其原因は多く皮膚の營養障礙か、或は全身の故障、特に貧血、内分泌障礙等が其根本をなして居ることが多い。従つて其本を糺し原因的治療を行はなければ効果はない。

そこで爪の形が段々悪くなるか、爪が割れるか、光澤が變化するやうな人は、先づ第一に其日常生活で何か皮膚を刺戟するやうな物を扱つては居ぬか、例へば化學藥品であるとか、不絶手を濡すとか、そういふ生活を變へねばならぬ。次に仕事の性質上止むを得ず斯様な外的刺戟を受け易い人は、平生手袋を嵌めるとか、出来るだけ終業後、手を清淨にするやうにし、若し手足の冷え易い人であれば直に専門醫師により婦

人性器、血液、血壓、糞便の検査を受けて、多少とも故障があつたら速かに其治療を受けなければならぬ。此意味で爪の變化といふものは或程度内臓の疾患の危険を告げる「シグナル」と考へてもよい。

又局所療法としては第一に血液の循環を良くすることが大切で、それには温浴（毎日手や足を三十分間位）、「マッサージ」、赤外線照射等を行ひ、又爪の剪り方を余り深くしないやうに、毎日「爪ブラシ」を使ひ石鹼で清淨にするがよい。

爪が硬化する「爪甲硬化症」の如きや、厚くなり、曲つて鳥獸の爪のやうになる、「爪甲鉤彎症」^{コウレンシヨウ}のやうなものには爪根部の皮膚に「ラヂウム」を照射すると効果がある。概して全身療法に重きを置くべきで、局所療法に捉はれてはならぬ。

十六、美容法と美容料及其選擇上の注意

美容料化学と言ふものは其初めは醫藥から分かれたものであつて、種々な過程を経て今日の如く特殊の發達をなすに至つたものである。只兩者の異なる處は醫藥は既に病變を起したものに對處せんことを目的とするに對し、化粧料は尙未だ變化せざるに先立つて病變の起るのを防ぎ、併せて其榮養を増進せんことを目的として居るにある。従つて醫藥には不用の配合を忌むに反し、化粧料に於ては直接關係なき香料又は色素を混じて商品としての販賣効果を大ならしめんとして居る。

勿論其本來の目的からしても化粧料と雖、材料の純正なるべきは論を俟たないが、世上往々にして外装に精にして内容の適正を閑却せんとするの傾向あるは、其本來の目的に照らして寒心に堪えない所である。著者は茲に化粧料に對する一般の認識を昂

め各自の選擇に資せんと欲するものであつて、是によつて化粧品による被害を多少とも救ふことが出来れば本懐である。

I 石 鹼

石鹼は美容上又衛生上缺くべからざるものであつて、古くは奈良朝時代既に外國（多分支那）から本朝に傳つたと言ふことである（横尾氏に據る）。

之は「ステアリン酸」、「パルミチン酸」、「オレイン酸」等の脂肪酸の加里や「ナトリウム化合物」であつて、其脂肪酸の性質及び化合物した「アルカリ」の種類で固形、軟質、液狀、粉末等色々の形をして居る。

石鹼の中に硫黄、水銀等の金屬を含有させたもの、及び「リゾール」の如き消毒劑と混じたもの等がありそれぞれ治療の目的に使用せられる。殊に硫黄石鹼は疥癬又は白癬シラクモの如き疾病に、水銀石鹼は頭蝨又は陰蝨ケジラミに特效がある。

併し一般に使用して居るものは孰れも少量の「アルカリ分」が残存し、此「アルカリ」によつて皮膚の角質を軟化し、一方石鹼の泡が出来て之で皮膚の表面にある汚物を吸着し器械的に洗ひ流す作用を有する。石鹼の泡について實驗した益子氏の成績による細菌などは専ら泡の中に包まれて居り、之が一定の濃度に達すると可なり強い殺菌力を發揮することが判つて居る。殊に頭部毛髪内の如き部分は可なり多量の脂肪が附着して居るし密生した毛幹のため、不潔物は單に水で洗つただけでは完全に除去することは不可能であるが、多量の泡を立てるやうに工夫された「シャンプー」などを用ひると單時間に清淨にすることが出来るのである。其成分の一種を擧ぐれば、

オリーブ油 四、〇

コ、ナット油 二〇、〇

苛性加里八五% 三、七五

苛性曹達八五% 一、八七

アルコール

一五、〇

水

五四、三八

香料

一、〇 (西澤氏ニ據ル)

石鹼の純良であるかないかは皮膚の衛生上に重大な影響があるので、第一には使用せられた脂肪の種類、「残餘アルカリ」の量が此問題の主要點である。

現在使用せられる脂肪は大部分植物性のもので豆油、蓖麻子油、「ココ、ナット油」、オリーブ油等は優良な原料である。此ほか動物性の油は主に魚油で、鯨油の大部分は石鹼材料となる。使用された脂肪又は油類が分解し遊離の脂肪酸が存在したり、「過剩アルカリ」があつては不適當で、前者は一種の厭な臭がし、後者は切り口を嘗めると舌を刺戟する。又使用して皮膚がバサ／＼となるやうなものは宜しくない。

石鹼を使用するに當つては「マグネシウム鹽」を含有した「硬水」で溶いても泡が立たないから出来るだけ是等の鹽類のない「軟水」を使用せねばならぬ。併し或る程

度の硬水でも冷水では駄目であるが之を煮沸すれば使用出来る種類のものもある。一番理想的なのは雨水である。

石鹼で洗滌した後は充分洗ひ落して皮膚に残らぬやうにして置かねば皮膚を害して荒れ易くなる。又使用上冷水よりも温湯の方が効果が多い。要するに石鹼の良否は必ずしも香料や脱脂の程度で決まるのではなく、充分に脂肪を分解しても、過度に皮膚の脂肪を溶解し去ることなく、適度に泡沫を形成せしめ得ることにある。

II クリーム

「クリーム」は油、脂肪又は蠟を適當に混合融和したものであつて、「クリンシング」、「コールド」、「ヴェニッシング」等の種類があり、孰れも皮膚の表面に塗布し、是に軽い「マッサージ」を加へて平等にし、又は毛孔から擦り込むやうにするのであつて、其目的は皮膚の不潔なる附着物や脂肪の澱溜を排除し、皮膚を粘滑にし、同時に乾燥を防

くことにより輝裂アキギレや荒れを止める目的に使用するのである。

是に使用する油脂が純良であるべきは勿論であるが、若し分解して遊離の酸が出来ると其刺戟で皮膚に炎衝を生ずるのみならず、不純物として刺戟性の礦物性油類を混じて居るものでは、長い間に皮膚が荒れて紅くなつたり、濕疹が酷くなつて糜爛タタレを生じたりする。優良品は皮膚に塗つた場合、平等に伸びツル／＼した感じがあり、一旦磨り込んで拭き除つたあと、何時迄もベタ／＼しない。又使用後に表面が乾燥したり、皮膚が紅くなるやうなことはない。粗悪なものでは假令香料を用ひてあつても、磨り込んであると一種の刺戟性の厭な香を有し、拭いてもサッパリと落ちない。又屢々使用後に灼熱ホテツつたり、痒みを覺へたりする。

使用法としては「コールドクリーム」、「クリンシングクリーム」共に皮膚を出来るだけ暖めて毛孔を開大させ、表面の角質を柔かにしてのち「クリーム」を伸して擦り込む。少し厚めに塗つた「クリーム」は皮膚を蒸して之を拭き除ると、表皮のみならず

毛孔や毛孔に入つて居る不潔物も除去することが出来るから、其跡へもう一度薄目に之を塗つてもよし、又「ヴニッシングクリーム」を塗つておいてもよい。後者は皮膚の脂肪の補給をなす外表皮の一部を融かす力もあるから、汚なくザラ／＼した所へ塗るのに適して居る。

「クリンシングクリーム」は密蠟、「ワゼリン」、「パラフィン油」、硼砂、米粉等を混じたもので、「ヴニッシングクリーム」は「ステアリン酸」、「苛性加里」、「グリセリン」、「ステアリン酸ブチル」、及び水から出来て居る。此中で「ステアリン酸」と「ワゼリン」が不適であると、却つて皮膚を害する根原をなすものであるから、不快な刺戟臭を有するものは使用しない方がよい。

Ⅲ 白 粉

之は皮膚の表面に撒布又は塗擦ヌリツクて之を覆ひ隠す目的である。即ち皮膚本來の色を隠

して之を他の人工的の色調を以て代らせようとするのであるが、是には白色、紅色、黄色等様々の色調を加へてある。私は巴里の「コテイ會社」の賣店で白粉を買つたことがあるが、どの色合のが欲しいかと賣り娘に見本を出されて種類の澤山あるのに一驚を吃したことがある。

元來皮膚の本當の美しさと言ふものは本來の皮膚の持つ色調以外にはない譯であつて、之を人工の色で模倣しようとしても到底及び能はざるは言ふ迄もない所で、之がため歐洲人と雖、妙齡の婦人は白粉をつけないのを誇りとして居るのであるが、我邦の人々は猥りに米國式「シネマ女優」の極端なる化粧の眞似をして、度強^{ドキョウ}い化粧を施し、職業婦人の亞流を追ふて居るのは嘆しいことである。

併し相當の年齢になれば最早多少の紛飾を行ふのは止むを得ぬのであるから、此際は特に使用する材料に注意を拂はねば只さへ皮膚は幾分衰へかゝつて居るのであるから、其害をうける程度も強く現れる譯である。

假令若い婦人でも粗惡な材料を用ひれば皮膚の角質が破壊せられて割れ目を生じ、毛孔や汗孔に溜つた粉が、脂肪又は汗の中の化學成分と化合し、黒い小點となり所謂「白粉焦け」と言ふ皮膚の「汚點」を作るやうになる。

白粉の多くは金屬鹽の粉末であつて、其中でも亞鉛、鉛、「チタニウム」、「カルシウム」、滑石等が使用せられる。鉛の鹽類が人體に害あることは既に知らぬ人はないと思ふが、之は單に自分自身が鉛中毒に罹ると言ふばかりでなく、之が血中に吸収せられ、乳汁に分泌されたものを子供に授乳すれば、間接に中毒して一種の腦膜炎様の病狀を呈して死亡するに至ることは、最早多くの實例によつて衆知の事實となつて居る。大體白粉の持つべき性質としては次のやうなものである。

イ 色 添加物による

ロ 被覆力^{ヒツククリキョク} 二酸化チタニウム、酸化亞鉛強し

ハ 滑り 滑石、石松、強し

ニ 香氣 「マグネシウム」、「カルシウム」の炭酸鹽強し
ホ 伸び 「マグネシウム」亞鉛「カルシウム」の「ステリン酸鹽」強し

之を適當に配合したものである。例へば

酸化亞鉛	二〇、〇
炭酸マグネシウム	二、〇
ステアリン酸亞鉛	六、〇
滑石	適量

と言ふやうなものである。

充分白粉の目的を達成するためには此ほかに尙粉末が出来るだけ平等で且つ細微であること、甚しく吸濕性でないこと、汗液、皮脂のため分解せざること、毛孔、汗孔に充填固着しないこと。等の性質を具備して居なければならぬ。是等の性質は必ずしも顯微鏡的に検査しなくても指の間で擦つて見るか、鏡の上に少し落して見ても分子

の細かであるかないかは判るし、蓋を開けておいて濕けるやうなのは吸濕性であり、少し強く擦り込んで後、拭きとつて尙いつ迄も毛孔に澤山残るのはよくない。

白粉の効用としては日光遮蔽力あることであつて、之は日光々線を反射するため皮膚の日焦けを止める働がある。所が着色白粉の性質によつては逆に光線を吸収し、違つた波長の光線を出すためその害を受けることがある。西洋で此種の被害が報告せられて居る。若し頬紅をつけて皮膚が荒れ氣味に感じたら直に之は止めなければならぬ。

白粉の種類に粉白粉の外に煉白粉、水白粉等の種類があり、前者は脂肪を含まざる「クリーム」に前記の各種の金屬を混和したもので、後者は水、「グリセリン」等の中に混じてある。

Ⅲ 美髮料及調髮料

毛髮を美しく保つ目的の爲めには單に毛の手入れをしただけでは完全ではない。毛

の攝養と同時に毛皮即ち有毛部皮膚の手當をも併行して行はねばならぬ。是等の方法は既に述べたから茲には其材料に就いて記述する。

1 植物性油

毛髪の乾燥を防ぎ光澤を與へる。特に所謂「胡麻鹽」程度のもものは乾燥により益々灰白色となるが、是に油をつけると急に白毛が黒く見えるものである。之は毛幹に空氣が入つて居るが、油のため空氣が失くなり反射が減ずるからである。

植物性油、椿油、オリーブ油、蓖麻子油。此うち「オリーブ油」は我邦では生産されぬのみならず、溫度が下ると凝固して暖めねば使用出来ぬ。又蓖麻子油は脱臭したものでないと厭な匂がある。只蓖麻子油は「アルコール」に溶解するから使用に都合がよい。此外米糠から壓搾して作つた油も使用され初めた。

毛髪の乾燥を防ぎ痒みを止める目的には次の處方がよい。

有毛部皮膚に類脂肪體を塗擦しても毛髪の發生を促進することは伊藤教授が實驗的に證明された。

無臭蓖麻子油	一〇、〇
七〇%アルコール	一〇、〇
流動石炭酸	一、〇
ラヘンデル油	五、〇
粗製レチン(大豆油製)	二〇、〇
大豆油	三〇、〇

2 動物性油

動物性脂蠟。鯨蠟、黃蠟、「ラノリン」、豚脂等である。總て植物性のものより稍硬い。

ラノリン	一〇〇、〇
スカポール	五、〇

又半凝固状のものとして

黄蠟	五、〇
鯨蠟	四、〇
ステアリン酸	一〇、〇
パラフィン油	八〇、〇

3 礦物性油

礦物性油脂。「パラフィン」、「ワゼリン」、「グリセリン」、等である。「パラフィン」は流動形のものゝ固形のものがあるが、之は餘り皮膚に用ひると毛嚢口を刺戟して乳^{ニユウ}嘴^{シユ}腫の發生を起すことがある。

白色ワゼリン	一〇、七
固形パラフィン	一、三

流動パラフィン	一八、〇
植物性油	六二、〇
香料	七、〇

毛髪用の脂肪又はポマード等は調髪の目的にも用ひるが、多量に用ひると頭皮の呼吸を害し、塵埃の附着を便にし、皮膚毛髪のため宜しくないから、少量を油で延して用ひ、特に洗髪には石鹼を使用し、充分之を除去して又新に塗油するやうにし、一度つけた油を五六日も其儘にしておくやうな無精をしてはならぬ。

V 口 紅

昔は専ら本邦製の口紅が愛用され京紅として全國に持て囃されたが、近時歐風化粧が流行するやうになり漸次に廢れ、今日では極く一部の特殊婦人によつてのみ使用せられるやうになつた。

元來本邦産の口紅は「紅草」と言ふ一年生草^{ホシ}の花^{ホシ}から採取したもので、其中の黄色素を除き、赤紅色の部分のみを集めたもので、餅紅と稱する花瓣の小塊を藁灰汁にて處理し、之より黄色い色素分を除外し、是に梅酢を加へ紅質を沈澱させ、更に之を絹漉にかけたものである。此^{エンジ}胭脂色は濃い白粉の厚化粧と對比すると美しいが、淡い化粧では對照がよくないのみならず、電燈の光では蠟燭やランプの光と違つて往々黒く見え、又剥げ易いから、漸次に近代的な濃厚な西洋式の「ルウジュ」に代られるやうになつた。是にも棒状のもの、「バスタ」の形になつたもの、「クリーム」になつたもの等があり、棒状のものは鯨油、「バラフィン」、「コ、ア酪」等で固形とし之に色素を加へ、「バスタ」の形をしたものは白蠟、「ステアリン」、「ワゼリン」が基質で、「クリーム状」のものは「ワゼリン」、「ラノリン」、「ステアリン酸」等を主劑として居る。色調にも十種以上もあつて、洒落た巴里^{パリジエンヌ}つ娘は照明及着衣の種類によつてそれぞれ色調を選択して使用する。



着沈素色の唇口るよに炎膚皮紅棒

紅色は主に「カルミン系統」の物を用ひ又「レーキ系統」の色も用ひられ、アニリン系のロダミンや、エオジンは其害を起す率が多い。

外國では此口紅の爲めに「口唇炎」と言ふ病症が既に報告され、特に佛蘭西に多く米國には尠いと言はれて居る。私も一度四十歳の婦人に發生したものを巴里で診たことがある。

之は唇の表面に輝裂が出来て硬い痂皮^{カサブタ}を生じ、紅く腫れ、口を動かすと疼を覺ゆるものであつた。此原因を使用した色素の作用に歸するものと、基劑の粘着による分泌障礙に原因すると言ふもの、或は色素抽出時に使用した「アルカリ」のためと考ふるもの等があつて一定しない。要するに「パラフィン基劑」の物を不絶塗つて置くことは好ましいものではないから、必要のない時は拭き除つて置くやうにすること。余り濃い目に塗つた後は、矢張り唇を暖めて皮膚の深部に浸み込んだものを、充分除去するやうにした方が安全である。之は私の杞憂かも知れぬけれど使用基劑の性質上、將

來西洋口紅の使用が原因で、口唇皮膚癬などの症例も出て來はせぬかと惧れて居る。

最近私は棒紅を使用したため起つた障碍の一例を経験したから之を記載して注意を促したい。それは二十六歳の獨身婦人で、四五年以前から西洋口紅を使用して居たが、昨年使用した邦製の棒紅は使用一週間位で唇紅部から、其上方にかけピリ／＼する感じと、灼けるやうな氣持ちが起り、皮膚が紅く腫れ上つたから其使用を止めた。此皮膚の炎症は一週間位で癒つたが、次第に此部分の紅味が薄らぐと共に黒褐色に着色し、色々手當を加へたけれ共癒らなくなつたので、私共に相談に來られたのであつた。

色の着いた部分は寫眞に見える通り、上唇の右側上方で、薄い所は周圍と餘り區別がつかぬ程度であるが、中心部は可なり濃く、皮膚は別に腫れて居ぬが深い部分に色素が出來て、拭いたり、擦つたりしても除れぬ。此棒紅の色素はオレンヂⅡと言ふ複雑な有機化合物で、恐らく此色素の刺戟が原因であると思ふ。

VI 爪甲用化粧料

健康人の爪は其表面が滑澤で一種の光輝を有して居るが、勞働に従事する人、化學藥品を取扱ふ人達の爪甲は汚く色が着いて居るものが多い。

爪に化粧することは歐米婦人間には一つの習慣となり、單に光澤を與へる目的に、又は別に「ピンク色」を出したものと等がある。此薄い層は一度つけておくと二三日位除れないが、不絶美しくしておくには毎日塗布しなければならぬ。最初先づ爪を鏝ヤスリで平らにし、凹凸を除き、勿論爪根や爪廓の垢を取り除いて、其後に爪磨き粉、爪漂白剤等をつけ充分摩擦し、大體下準備が出來たら更らに鞣革ナシシカワで爪の表面を摩擦すると光澤が出て美しくなる。併し此儘に放任すると數日の間に又舊の如く汚くなるから、之を防ぐために「エナメル」を塗るのである。之は

醋酸アミール 二二、四
 アセトン 七〇、六

此方法は今日行はれて居る爪化粧の方法であるが、「エナメル」の中の「醋酸アミール」や表皮を除去するために用ふる溶剤の中に含まれて居る磷酸曹達等のため、爪甲の角質が犯されて脆ろくなり壊れ易く形が變形するやうになる。「エナメル」の代りにクリームを代用することも出来る。

ワゼリン 五八、〇
 鯨 蠟 一二、八
 白 蠟 七、八
 ラノリン 八、六
 香 料 〇、五
 水 一二、三

之はよく塗つておくと光澤を失はず、乾燥を防ぐ用をなす。

Ⅱ 香料及香油

多くの化粧料は芳香を有して居る、之は化粧料の使用を快適ならしめる目的であつて、添加された香料によるものである。

元來香料は植物性、動物性、及化學的合成によるものであつて、其空氣中に發散した香分子のため、鼻粘膜の嗅神經に刺戟を與へ、初めて其特有の香氣を感ずるのである。従つて空氣中に擴散して行く作用、竝に之により受ける刺戟の感受性如何によつて同一の香料でも、人によつて感じは同一でない。例へば甲は非常に芳香を感じても、乙は強い不快な刺戟として嫌忌することあるは、人の知る所である。又或る種の變質者では人の好まざる臭氣を嗅ぎ、却つて快感を覺ゆるものもある。

元來總ての香料は外氣の影響により其與ふる刺戟を左右されるもので、最適の芳香

を放つためには適當の温度と湿度とを必要とし、多くのものは零下二百七十三度迄冷却すると全く無臭となるとさへ言はれて居る。

一般に嗅官は練習によつて發達するものであつて、日常各種の香料に接して居るものは數十種の香氣を嗅ぎ分けられるが、此感受性は時間的に減衰して遂に官能が麻痺するに至ることは、俗に「臭いもの身知らず」と言はれることによつても明かであるが、此疲勞は一定の時間休養すれば直に恢復し、健康者に於ては約四―五分である。併し病的に鼻粘膜が變化した者は更に長時間を要し、時とすると全く臭覺を脱失し、刺戟強き香料に對しても少しも之を感受し得ない病者もある。

扱て多くの香料は前述の如く空氣中に擴散揮發する性質があるから、之を混じた化粧料を皮膚又は頭髮に使用する時は毛孔、汗孔等から皮膚に浸入し易く、又或る種のもものは皮膚表面にあつて光線の屈折を變じ、皮膚透過性を増強する。従つて皮膚内部に擴散したものは皮脂腺、汗腺を刺戟し、場合によつては毛囊炎、汗孔炎或は其部の

角化増生ソウセイを起して毛孔又は汗孔が硬くなることがある。

VII オードコロニユ(俗にフケ除り香水)

之は千七百〇九年にギオヴァンニ、マリアファリナ Giovanni Mariafarina が創製したもので

ベルガモット油	五七〇、〇
ゲラニウム油	五〇、〇
ラヴェンデル油	一三〇、〇
ロスマリン油	三〇、〇
枸櫞油	一〇〇、〇
チトラル	三〇、〇
人工ネロリー油	一三〇、〇

ペチットグレーン油	二二五、〇
イツオイゲノール	二一〇
桂皮油	二一〇
酒精	三〇〇〇〇・〇
蒸餾水	三〇〇〇・〇

等の各種の香油を含み、獨逸ケルン市で發賣せられ現在も同市の名産として宣傳せられて居る。(オー Ear は佛蘭西語の水コロニーユ Cologne 獨語ライン河畔にあるケルン市の佛蘭西名でケルン水と言ふ意)

所が今から十年餘り以前に獨逸の或る皮膚病専門家の所に、頸筋から肩にかけて皮膚に黒い斑點が出来た婦人が數名診療を受けに來た。是等の患者は皆夏季水泳をやつた後「オードコロン」を使用し、日光に照らされたといふ經驗ある者のみであつた所から、其醫師は斯る色素斑の發生と使用した化粧料及日光々線との關係に疑を持ち、

人工的に「オードコロニーユ」を塗布した皮膚を日光又は紫外線で照射した所、塗布しない部分より遙かに強い日焦けを生じ、次で皮膚の色が黒くなつた。其後色々の實驗の結果、此作用は主として其中に含有して居る「ベルガモット油」の作用であることが判明するに至つた。現在私共は人工的に紫外線を照射する時には此理を應用し、「ベルガモット油」と他の有効藥劑とを混じ、豫め照射部位の皮膚に塗布し治療を行つて、常に光線作用を強力ならしめることに成功して居る。

そこで若し「オードコロニーユ」を使用する場合注意すべきことは、第一に顔や頸に流れる程大量に使用しないこと、次には使用後直に其部分を日光に直射したり、或は太陽等の人工光線照射をなさざることである。若し不注意に以上の事をなせば皮膚の過敏な人は皮膚炎を起して紅くなり、水疱を生じ、次いで其部分の皮膚は黒褐色に色がつくやうになる。

Ⅹ ウェーブ

日本人の毛髪は之を支那人、朝鮮人に比較すると稍、正圓形に近い斷面を有して居る。従つて正常頭髪は縮れて居らぬ。即ち毛根から毛尖に至るまで次第に細くなつて尖端は鈍尖となつて居る。

近年歐風の美容法が輸入せらるゝ迄は専ら日本髪が婦人の結髪様式であつたから縮毛は一般に忌まれたものであつたが、世界大戰以後斷髪が流行し其單調を償ふため頭髪を「カール」することが流行り出し、茲に種々なる工夫が凝らされるやうになつた。併し歴史的に觀るならば頭髪を縮らす風習は既にギリシヤやローマ時代から行はれたことは、當時の繪畫や彫刻を觀ても判ることである。即ち平凡な毛流モウリウより夫れに屈曲を作り頭髪に起伏を起させることの方が複雑で觀た目に美を感ぜさせるからである。斯く毛を縮らせる事は長髪時代からあつたが斷髪又は短髪となつた現今では一層此傾

向が強くなつた。尤も筆者が十年前渡歐した頃は猫も杓子も斷髪で、宿の女中や學生は更らなり、良家の子女に至る迄競つて斷髪したものであつたが、昭和十二年に再度歐米を巡遊して見ると、今度は以前の如き髪を「カット」したものは極く稀れで大部分は短か目にした長髪が大部分を占めて居つた。之は恐らく以前の如き極端な斷髪は手入れに便利ではあるが、餘りに單調であつて變化に乏しいため一般に飽かれたものであらうと思ふ。

扱て其所で問題の「ウェーブ」であるが之には種々の方法が行はれる。

1 カーリングペーパー

之は最も原始的な方法で私は佛蘭西の若い娘さん達が家庭で之をやつて居るのを見て、丁度高島田の日本娘を見た時のやうな感じがした。之は一種の厚い紙で、之に小さな毛の束を巻きつけ、紙を巻いて一定の時間其儘にし毛に癖をつける方法で、主

として垂らした髪の尖端に渦巻を作る方法であるが永續性はない。従つて又毛を痛めることもない。

2 金属ピン

之は紙の代りに金属のピンを用ひ髪を先づ濡らして是に固く捲きつけ、縛つておいて、乾燥した後之を解いて毛の癖をつける方法であつて、其効果も永續性はない。

3 壓縮法

之は浪形になつた金属線の中に毛髪を挟み「パネ」仕掛けで上下から髪を壓迫し、其波の形に毛癖を付ける方法である。之も一度毛を温湯で濡らして使用し、一晚位其儘にして乾燥させた後機械を外すと其形に毛が縮れて居る。

4 焼 燙

之は金属の二本の棒を缺のやうにした物を熱し、此二本の熱した棒の間に毛髪を挟んで毛に熱を加へ、幾箇所も斯様な加熱部を作つて毛を縮らす方法である。即ち加熱のため毛幹の表面「クチクラ層」が膨化し直径に不同が生ずるから、其所に縮れが出る。此方法は加熱する前に少量の油を塗り、温度を餘り高くしないことで、毛質に變化を與へることを防止出来るが、温度が適當でないと目的を達することが出来ず、餘り高過ぎると角質が焦げて毛が折れ易くなる。多くの場合度々此方法を用ひて居る人の髪は短かく斷れて、毛に光澤がなくなる方が多く、奏効は比較的確實であるが毛に害を及すことも強いから用ひない方がよい。

5 パーマネントウェーブ

之は歐洲大戰後に流行り出した縮毛法で、歐米から我邦に輸入せられ、數年前より本邦婦人間にも之を行ふモダン婦人が多くなつた。之は毛髪を充分清潔に洗滌し、

是に炭酸曹達、炭酸アンモニア、礬砂等を混じだ「ローション」を浸すと是等の藥品で毛髪の「クチクラ」が一部分溶解し毛が柔軟になるので、之を適當の大きさの棒に捲き付け、是に電熱を加へ、然る後に「トラガカント護膜」、酒精、水等の混合からなる「型付け液」を塗つて乾燥させるのである。

此方法によつたものは時々所謂「セツテング」を行ふことにより數ヶ月の卷縮れた状態を保たせることが出来る。

只此所で問題となるのは所謂オイルと稱する軟化液の使用と加熱とであつて、使用「アルカリ」の程度如何で、毛質の溶解が過度であると著しく毛表面の滑平性が失はれ且つ菲薄ウツくなり、其爲めに色素減量により毛の色が赫くなり、同時に折れ易く、且つ毛バ立つ。又加熱の度が高度に過ぎると毛が焦げて脆くなり、頭の火傷を犯す危険がある。

是等の危険は術者の熟練により又は適當の藥品及油を使用することにより防止する

ことが出来るが、之以外に加熱乾燥等のため神經質の婦人、高血壓、貧血等の人々には多少の障碍を起すのみならず、本法の施術を受けた人は洗髪「ブラッシ」の使用、梳き髪の怠慢等で毛髪の手入れが怠られるため頭髪の汚れや頭皮の雲脂フケで却つて衛生上宜しからざる結果を來すことが多い。此事は既に英佛の皮膚専門醫によつても注意せられた所であつて、我々の見地からすれば餘り推奨すべき方法とは言ひ難いのみならず、場合によつては寧ろ禿げを促進する危険を藏して居ることを忘れてはならぬ。殊に數回本法を繰り返した毛を顯微鏡的に検査すると、毛の表面は非常に荒れて「クチクラ層」が剝離脱落して居るのを観ることが出来た。

X 白髮 染

白髮は前にも述べた通り年齢の關係で自然に發生し、又他の病的理由により早期にも生ずるものである。

有色人種では頭髮は黒色であるため之が白髪となることは、白色人種が白髪になつた場合よりも遙かに目立ち美容上好しきものではない。そこで出来るならば之を恒久的に黒色に保ちたいものである。自然に起つた色素の衰乏は之を恢復することが困難であるため、勢ひ人工的に外部より是に着色するより外ない。尤も稀に一旦脱失した毛髪の色素が再生し、老人の白髪が復た元の漆黒に變つたと言ふ例もないではないが、併し病的に若い人に出來た白髪と違ひ、體全體が衰へて起る自然現象であるから治療により復舊することは非常に困難と思はなければならぬ。

大體白くなつた毛を黒く觀せるためには二つの方法があつて、器械的方法と化學的方法とに分けることが出来る。

1 器械的方法

之は毛髪の外表面に既製の黒色素を附着せしむる方法で、在來用ひられて居るのは

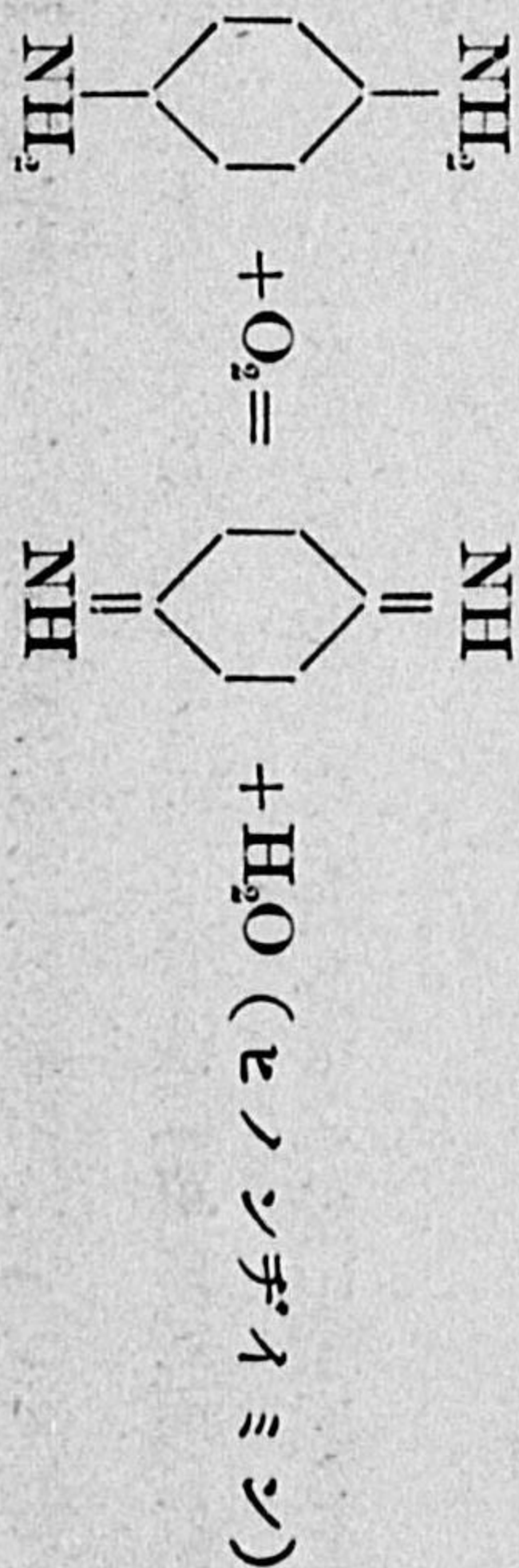
油、鬢付、アラビア護謨等に微粒炭粉又は墨粉を混じ、(桐炭、コルク炭、烏賊墨)之を櫛を以て塗布するのである。此方法は單に表面に粘着しただけであるから、脱落するばかりでなく他の衣服等に附着して之を汚染するし、又は汗で流れるため永續性がない。

2 化學的染髮法

此方法は毛幹に有機又は無機の化合物を浸潤し、之を酸化或は還元させて黒色調を出すのである。

此目的に外國ではよく胡桃の果肉又は葉の浸出液を用ひるといふことである。之は恐らく其内に含有する單寧タンニンの作用であると考えられる。無機化合物では銀、銅、鉛、蒼鉛、「コバルト」等の鹽類が使用せられたが、是等の金屬鹽類はそれぞれ毒性があつて、皮膚又は毛幹を害するから今では餘り用ひられぬ。

現在最も普遍的に用ひられるのは「バラ、フェニールンヂアミン」であつて、之は様々な名前で賣り出されて居るので、一見別種の物の如く見えるけれども、其主成分に至つては殆ど皆同一であると考えてよい。外國製の染髮料には此ほかシヨウセイイボツシヨクレンヂ焦性没食子酸を主成分とした非常に高價な物もあるが、之は餘り一般に使用されて居ない。此方は「カブレ」て皮膚炎を起す危険がない代り、黒くなる迄に相當の時間を要し、染上りまでに四―五時間の辛棒が肝用で、其作用は空氣中の酸素と結合して黒變するのである。白髮染にカブレるのは「パラフェニールンヂアミン」が空氣中で酸化し「ヒノンヂイミン」(Chinendimin)となり、之が皮膚に害をなすのである。



所が此藥劑により害を受けるのは總ての人に起るのでなくて、或特定の人にのみ現れるのであつて、使ひ初めに中毒するものもあるが、又何回か無事に済んで突然「カブレ」が初まることもある。いづれにしても一度其症狀が現れた以後は使用後多少の障碍なくしては濟まぬものである。

中毒症狀は染めて五六時間後には頭皮が逆上ノボたやうに灼熱感を覚え、痒くなると同時に局所が紅くなり、浮腫又は水疱が出来、顔面殊に眼瞼、唇、耳翼等にも同様の變化が生じ、激しい時には頸、胸、肩等にまで及ぶものである。此中毒の特徴は浮腫又は水疱の強いと言ふことで、其爲め頭部の皮膚は糜れて水が出るやうになり、痒みのため安眠出来ない。

又一旦斯様な病狀を呈しても二―三週間の後には次第に腫れや紅味が減じ、乾燥して其儘一ヶ月位で癒ることもあり、或は之から次第に慢性の濕疹に變じ、長く皮膚病に悩まされ、其爲め頭髪は脱毛し、光澤がなく、折れ易くなる。

斯様な變化は毛髪を染める際、單に毛ばかりでなく皮膚に染料が附着し、之が皮膚組織を刺戟するためであつて、健康人に對しては此化學藥品は大して害をなさないが、或る人々は本劑により直に反應を起す特別の反應物質が體內に成立されて居るので、其所へ更に刺戟劑が皮膚に到達すると其作用で激烈なる特殊の反應が皮膚に現れるのであつて、之を「特異體質者」又は「過敏性體質」と言つて居る。斯様なことは種々なる藥劑にも往々觀られる所で、例へば下熱劑である「アンチピリン」、「ピラミドン」或は下劑である「ラキサツール」等では紅斑の後、黒褐色の圓形斑紋が発生し、沃度や水銀劑等で、皮膚に紅斑又は水疱が出来るのと同じ現象である。

本劑は單に人體に應用される許りでなく、白色の兔皮や他の毛皮を染色するに使用せられて居るから、白髮染に「カブレ」る人が斯様な人工染色の毛皮で作つた襟卷や「マフラー」を使用しても亦同様の皮膚炎を起すことがある。

豫防法としては染色前に皮膚病を有する者は使用しないことで、若し非常に脂漏の

多い人は先づ以て之を癩して置き、又櫛などを染髮に使用する場合、手荒に髪を梳いて皮膚に傷を付けぬやうにする。又染め上つたら出来るだけ手早く石鹼等を用ひて洗滌し、餘分の藥液を完全に洗ひ落さねばならぬ。

尙一度「カブレ」た人が染髮料を選定する場合には、其染料を耳掻き半分位とり、脱脂綿又は「ネル」の布れの上に撒布し、之を腕に當て、上から繻帶して置き、一日経つても紅くも痒くもならないならば使用して見てもよろしい。此鑑別方法は之から染めて見ようといふ人にも試みて間違ひない方法である。

若し又不幸にして「カブレ」た場合には早速専門的治療を開始しなければならぬが、それ迄は二%の硼酸水で濕布するがよい。醫療としては一〇%の次亞硫酸曹達液二〇、〇ccを毎日靜脈内に注射し、局所には五〇、〇%亞鉛華「オレーフ油」を塗布し、其上から硼酸水濕布を行ひ、二―三時間に一回交換し、稍乾燥したら、「一〇%ピチロールオイルン泥膏」を塗布してやる。

5/20/98

3 銀劑染毛料

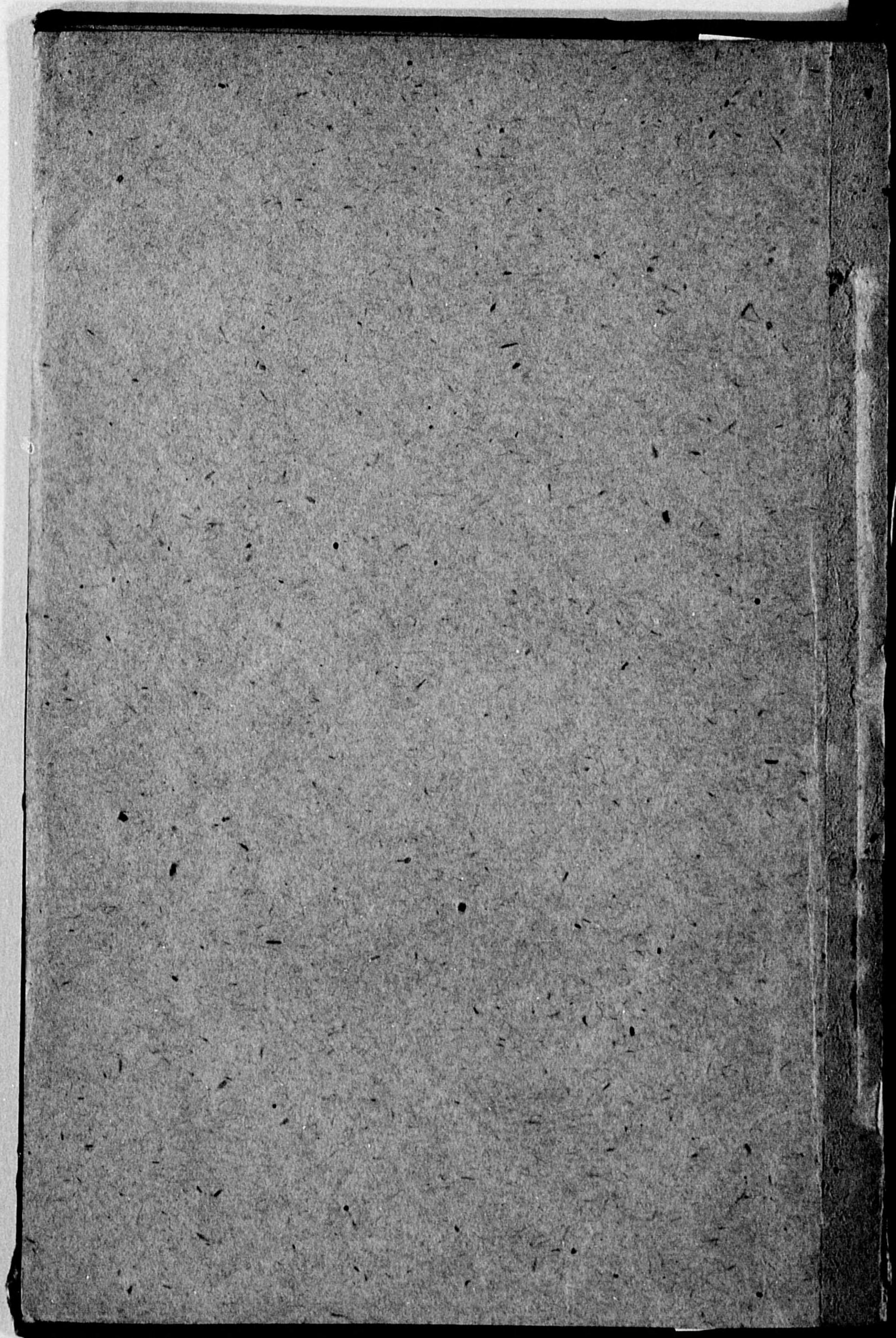
「パラフェニール」劑で「カブレ」て使用出来ない人は銀劑を試みるもよい。併し此藥劑は反覆使用して居ると毛根を刺戟して脱毛を起す危険がある。

- | | | | |
|--------|------|-------|--------|
| 焦性浸食子酸 | 一オンス | 硝酸銀 | 一オンス |
| 甲 醋酸 | 一五滴 | 乙 水 | 二〇オンス |
| 水 | 一ポンド | アンモニア | 一、五オンス |

甲液を塗布し、乾燥後乙液を塗布し、黒變したら清水を以てよく洗滌する。

- | | | | |
|---------|-------|-------|-------|
| 硫化アンモニア | 七〇、〇 | 硝酸銀 | 一五、〇 |
| 甲 苛性加里 | 三〇、〇 | 乙 硝酸鐵 | 五、〇 |
| 水 | 一〇〇、〇 | 蒸餾水 | 一六〇、〇 |

欠



欠

4948
H 38
2

終